除雪機械点検要項

昭和53年10月

社団法人 日本建設機械化協会
北陸支部

まえがき

近年の除雪作業は年々機械化が進み、除雪機械及びオペレータの存在は重要なものとなっています。しかし、除雪機械の取扱い、保守の面からみると未だ不充分な点も多く、ひいては除雪作業の効率低下の大きな要因ともなっています。

そこで、現場において、充分実施可能な仕業点検、取扱い上の注意事項を明示し、各現場に浸透するよう本要領を作成したものです。

本要項は最小限の事項のみに限定したため、必ずしも充分なものではないと思われますが、実施に当っては、メーカーの取扱い説明書等を一読する必要があります。

なお、本要領は施工部会除雪委員会のメンバーにより作成されたものであります。

除雪機械の運営に関し、その一助となれば幸です。

目　　次

Ⅰ. 仕業点検表

ロータリ除雪車（ＨＴＲ41）…… 1

〃　（ＨＴＲ200）…… 2

〃　（ＮＲ651・ＮＲ651Ｓ）…… 3

〃　（ＮＲ652・ＮＲ652Ｓ）…… 4

〃　（ＮＲ 653）…… 5

〃　（Ｒ 500Ｂ・Ｒ500Ｃ）…… 6

スノーローダ（ＮＲ 451）…… 7

除雪トラック…… 8

除雪グレーダ…… 9

除雪ドーザ・スノーローダ（履帯式）……10

〃　（車輪式）……11

凍結防止剤散布車……12

Ⅱ. 定期点検表

ロータリ除雪車（ＨＴＲ41）……13

〃　（ＨＴＲ 200）……15

〃　（ＮＲ651・ＮＲ651Ｓ）……17

〃　（ＮＲ652・ＮＲ652Ｓ）……19

ロータリ除雪車（NR 653）……21
〃　（R500B・R500C）……22
スノーローダ（NR 451）……23
除雪トラック……24
除雪グレーダ……26
除雪ドーザ・スノーローダ（履帯式）……27
（車輪式）……28
凍結防止剤散布車……29

Ⅲ．取扱い上の注意事項

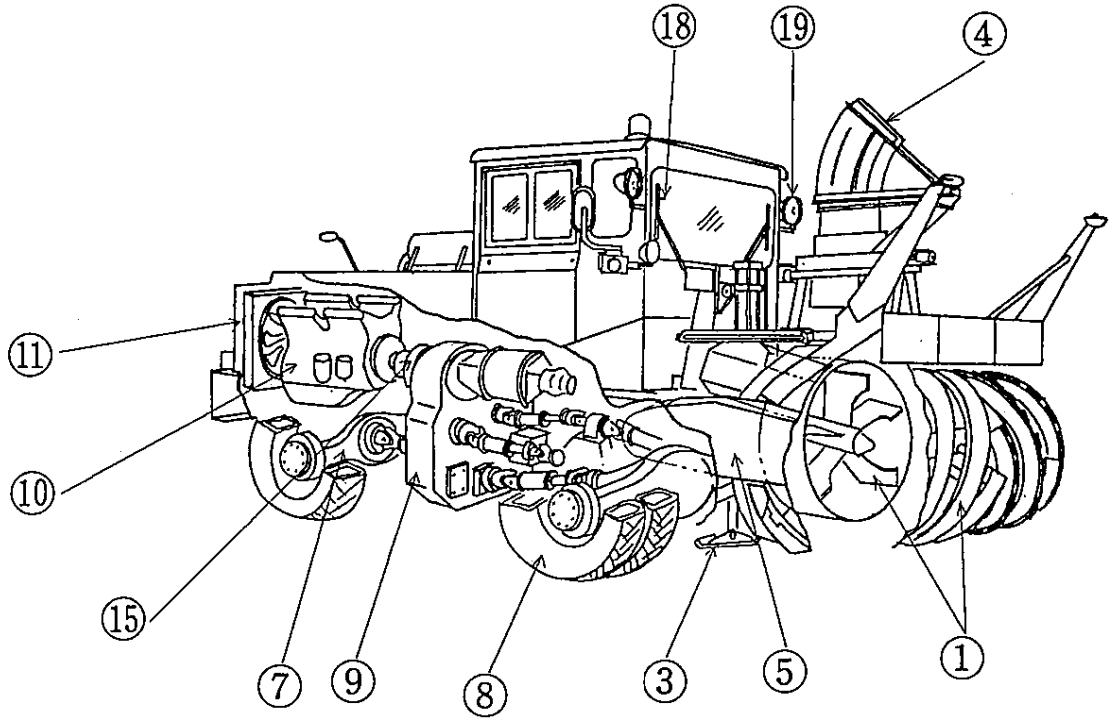
1．ロータリ除雪車（HTR41）……31
2．〃　（HTR 200）……31
3．〃　（NR651・NR651S）……32
4．〃　（NR652・NR652S）……34
5．〃　（NR 653）……35
6．〃　（R500B・R500C）……36
7．スノーローダ（NR 451）……37
8．除雪トラック……38
9．除雪グレーダ……39
10．除雪ドーザ・スノーローダ（履帯式・車輪式）……40
11．〃　（車輪式）……40
12．凍結防止剤散布車……40

Ⅰ. 仕業点検表

ロータリ除雪車(ＨＴＲ41)仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

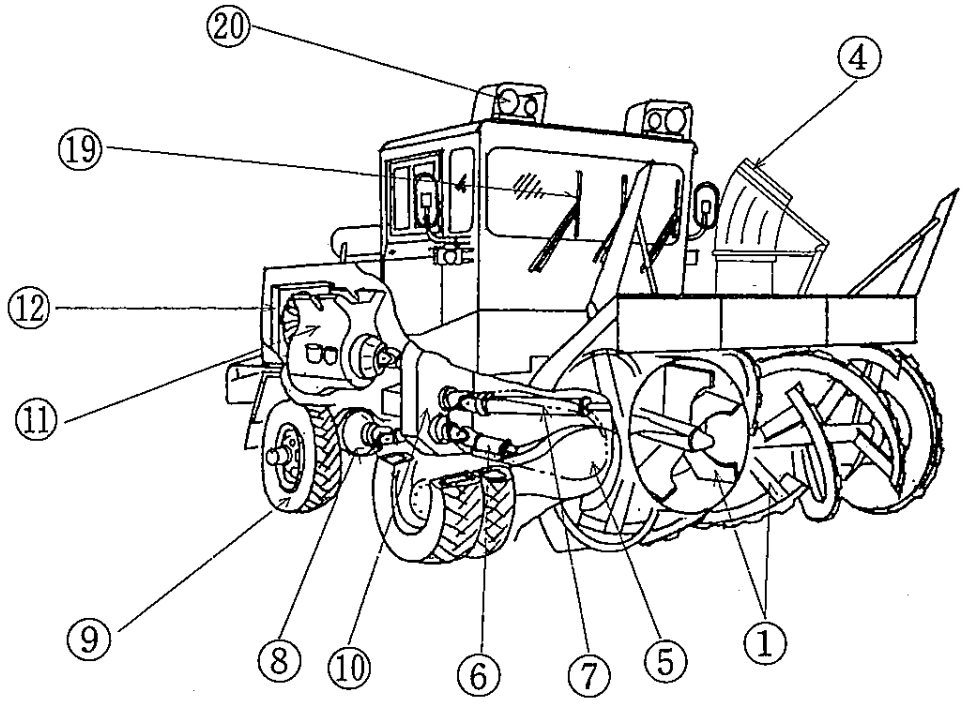
No.	作業装置						本体													その他
	1	2	3	4	5	6	7	8		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
点検箇所	オーガ・ブロア	カッチングエッジ(ボルト)	シュー(そり)	シュート	チェン伝動機	伝動機	デファレンシャルケース	タイヤ	タイヤチェン	変速機トルクコンバータ	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	油圧系統	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	計器類ワイパークラクションヒーター	各種灯具関係	復されているか項目は完全に修前日の不具合の
状態	亀裂損傷	ゆるみ摩耗	摩耗	亀裂	油もれ	油もれ	油もれ	空気圧損傷	ゆるみ摩耗	油もれ量	油もれ量	水もれ量	ゆるみ摩耗	油もれ量	重ガタ遊び油もれ	踏み代機能	踏み代きき具合液量	引代	機能	機能	
チェック																					



ロータリ除雪車(ＨＴＲ200)仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

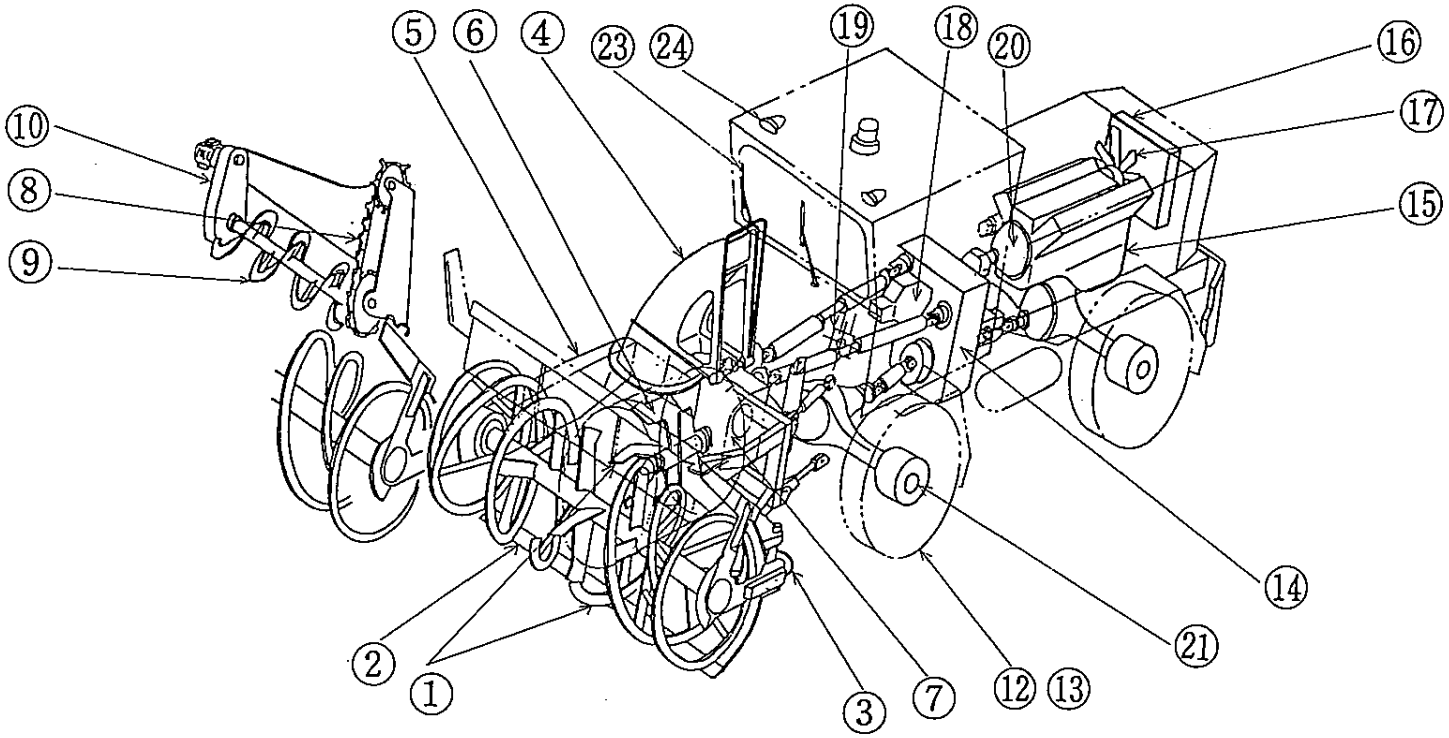
No.	作業装置							本体														その他
	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
点検箇所	オーガ・ブロア	カッチングエッジ(ボルト)	シュー(そり)	シュート	チェン伝動機	オーガ減速機	ブロア減速機	デフアレンシャルケース	タイヤ	タイヤチェン	動力分配機	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	油圧系統	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	ヒーター クラクション ワイパー 計器類	各種灯具関係	
状態	亀裂 損傷	ゆるみ 摩耗	摩耗	亀裂	油もれ 量	油もれ 量	油もれ 量	油もれ	空気圧 損傷	ゆるみ 摩耗	油もれ 量	油もれ 量	油もれ 量	ゆるみ 摩耗	油もれ 量	重ガタ 遊び 油もれ	踏み代 機能	踏み代 きき具合 液量	引き代	機能	機能	
チェック																						



ロータリ除雪車（ＮＲ651・ＮＲ651Ｓ）仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

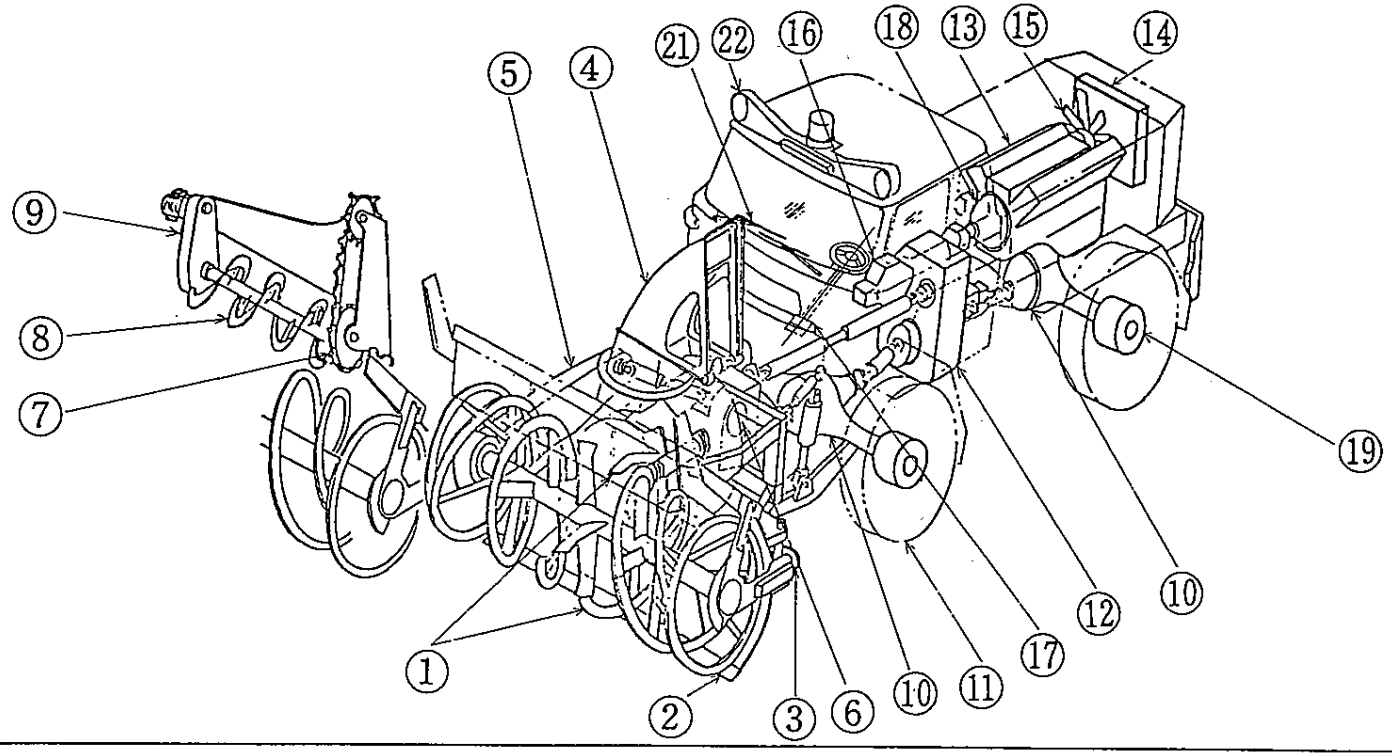
No.	作業装置										本体															その他
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
								雪堤処理装置																		
点検箇所	オーガ・ブロア	カッチングエッジ（ボルト）	シュー（そり）	シュート	チェーン伝動機	オーガ減速機	ブロア減速機	チェーンソー	ブレオーガ	チェンケース	デフアレンシャルケース	タイヤ	タイヤチェン	ハブナット（ボルト）	動力分配機	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	油圧系統	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	計器類・ワイパー・ヒーター・クラクション	各種灯具関係	復されているか項目は完全に修前日の不具合の
状態	損傷・亀裂	摩耗・ゆるみ	摩耗	亀裂	油量・油もれ	油量・油もれ	油量・油もれ	ゆるみ	損傷	油量・油もれ	油もれ	損傷・空気圧	摩耗・ゆるみ	切損・ゆるみ	油量・油もれ	油量・油もれ	水量・水もれ	摩耗・ゆるみ	油量・油もれ	油もれ・遊び・ガタ・重さ	機能・踏み代	液量・きき具合・踏み代	引き代	機能	機能	
チェック																										



ロータリ除雪車(ＮＲ652・ＮＲ652Ｓ)仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

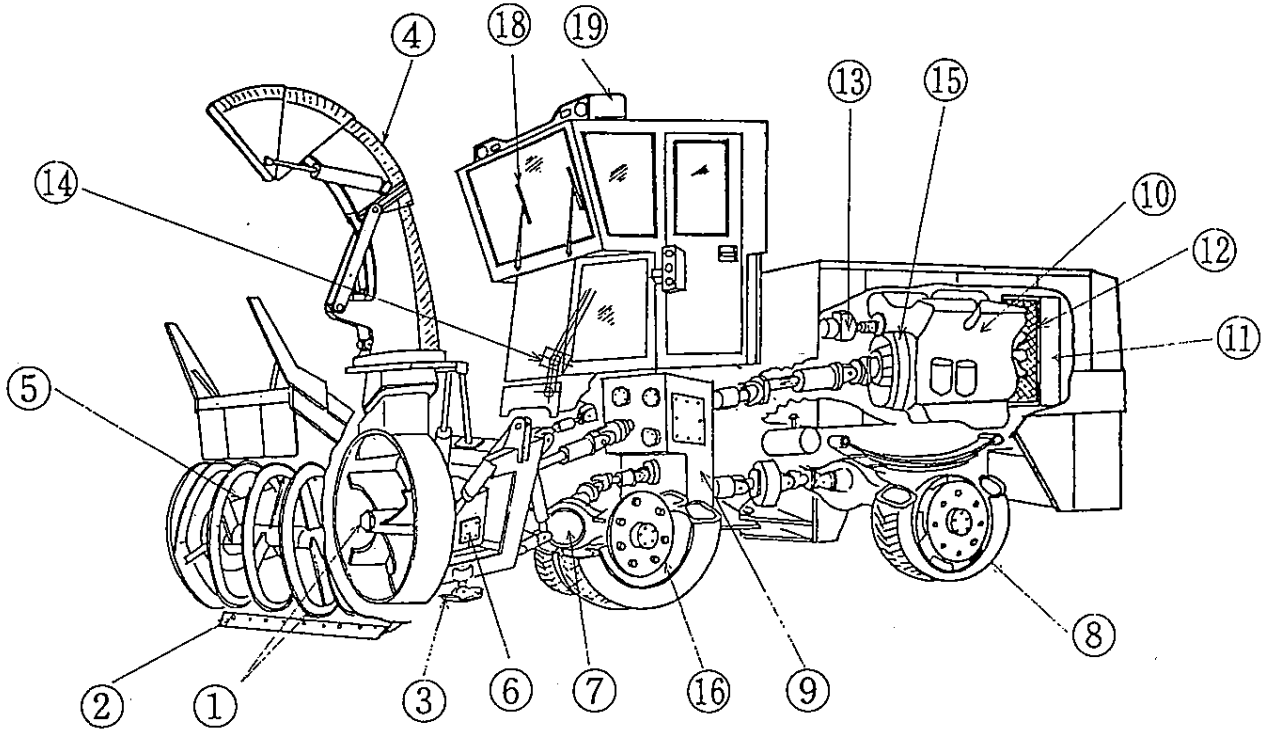
No.	作業装置									本体														その他
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
							雪堤処理装置																	
点検箇所	オーガ・ブロア	カッチングエッジ(ボルト)	シュー(そり)	シュート	チェン伝動機	ブロア減速機	チェーンソー	ブレオーガ	チェンケース	デファレンシャルケース	タイヤ	タイヤチェン	動力分配機	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	油圧系統	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	ヒーター クラクション ワイパー 計器類	各種灯具関係	復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
状態	亀裂 損傷	ゆるみ 摩耗	摩耗	亀裂	油もれ 油量	油もれ 油量	ゆるみ	損傷	油もれ 油量	油もれ	空気圧 損傷	ゆるみ 摩耗	油もれ 油量	油もれ 油量	水もれ 水量	ゆるみ 摩耗	油もれ 油量	重さ ガタ 遊び 油もれ	踏み代 機能	踏み代 きき具合 液量	引き代	機能	機能	
チェック																								



ロータリ除雪車(ＮＲ653)仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

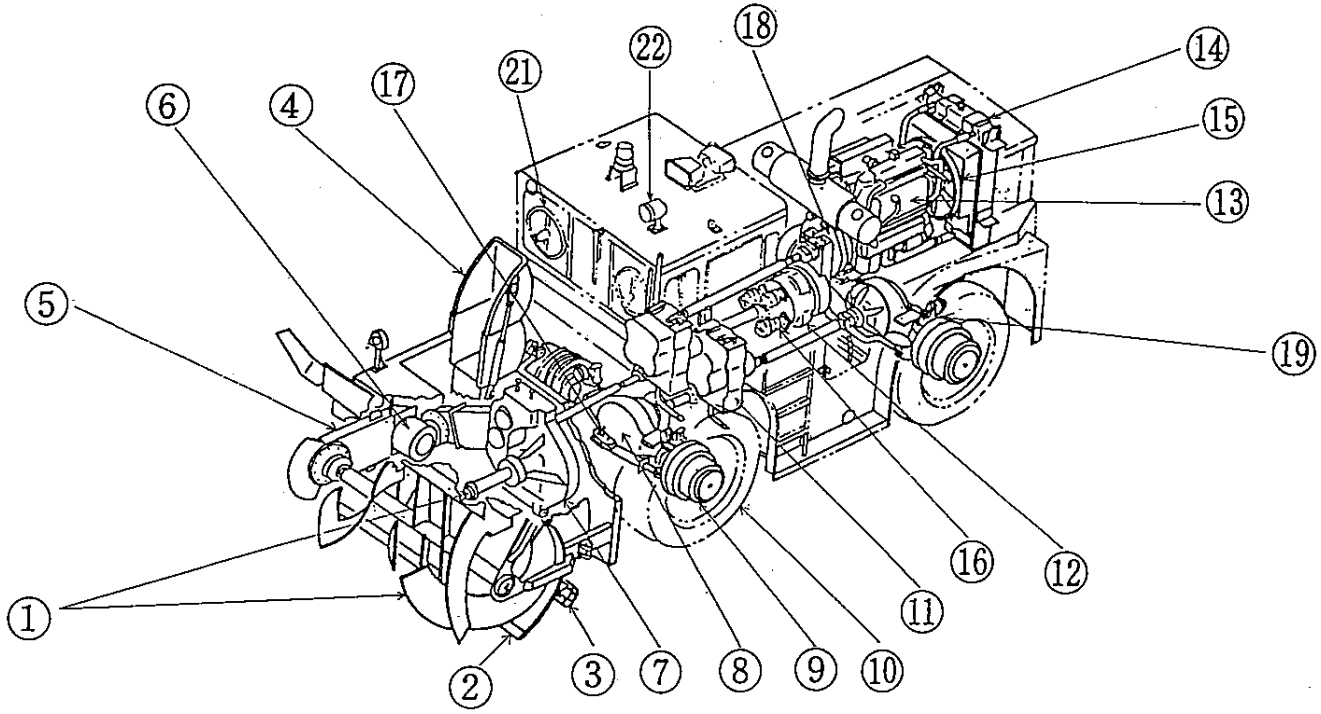
No.	作業装置						本体														その他
	1	2	3	4	5	6	7	8		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
点検箇所	オーガ・ブロア	カッチングエッジ(ボルト)	シュー(そり)	シュート	チェーン伝動機	ブロア減速機	デファレンシャルケース	タイヤ	タイヤチェン	動力分配機	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	油圧系統	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	ヒーター クラクション ワイパー 計器類	各種灯具関係	復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
状態	亀裂 損傷	ゆるみ 摩耗	摩耗	亀裂	油もれ 油量	油もれ 油量	油もれ	空気圧 損傷	ゆるみ 摩耗	油もれ 油量	油もれ 油量	水もれ 水量	ゆるみ 摩耗	油もれ 油量	重さ ガタ 遊び 油もれ	踏み代 機能	踏み代 きき具合 液量	引き代	機能	機能	
チェック																					



ロータリ除雪車（R500B・R500C）仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

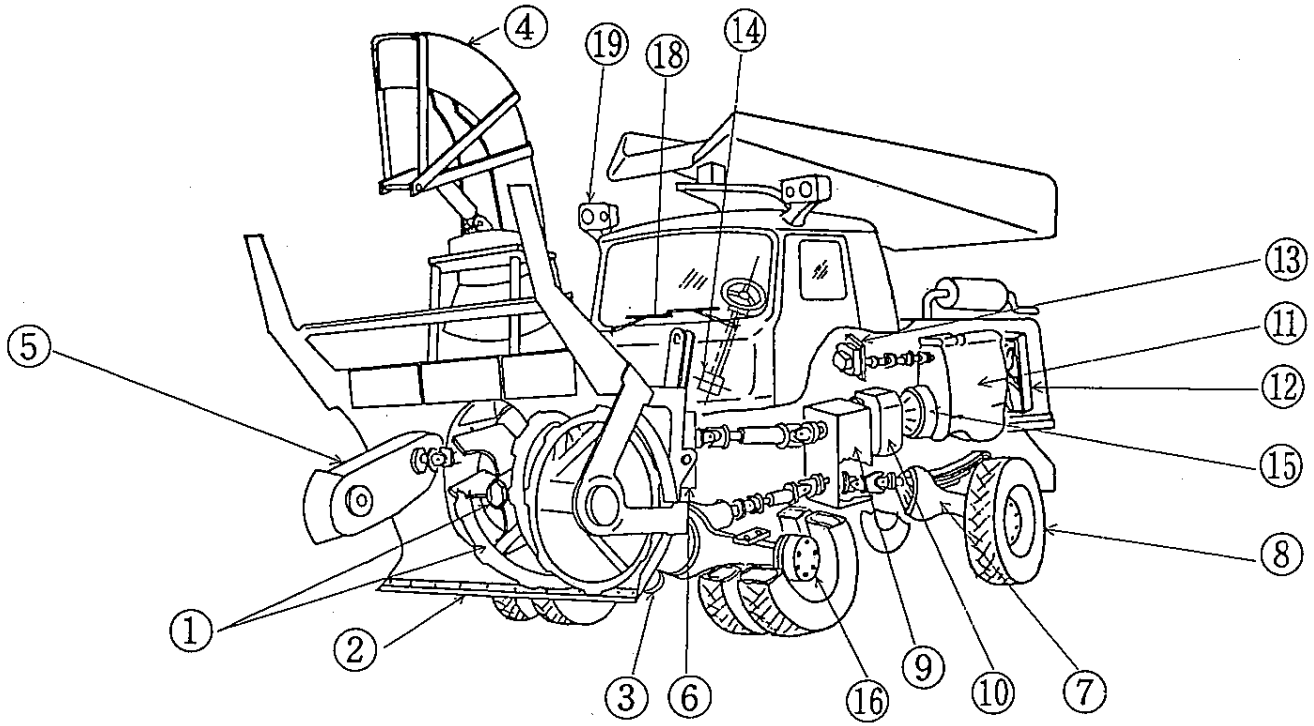
No.	作業装置							本体																その他
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
点検箇所	オーガ・ブロア	カッチングエッジ（ボルト）	シュー（そり）	シュート	チェーン伝動機	オーガ減速機	ブロア減速機	デファレンシャルケース	プラネットキャリア	タイヤ	タイヤチェン	トランスミッション	トルクデバイダトルクコンバータ	エンジン	ラジエータ	油圧系統	ファンベルト	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	計器類・ワイパー・ヒーター・クラクション	各種灯具関係	復されているか項目は完全に修前日の不具合の
状態	亀裂損傷	ゆるみ摩耗	摩耗	亀裂	油もれ量	油もれ量	油もれ量	油もれ	油もれ	空気圧損傷	ゆるみ摩耗	油もれ量	油もれ	油もれ量	水もれ量	ゆるみ摩耗	ゆるみ油量	重がタさ遊び油もれ	踏み代機能	踏み代きき具合液量	引き代	機能	機能	
チェック																								



スノーローダ(ＮＲ451)仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

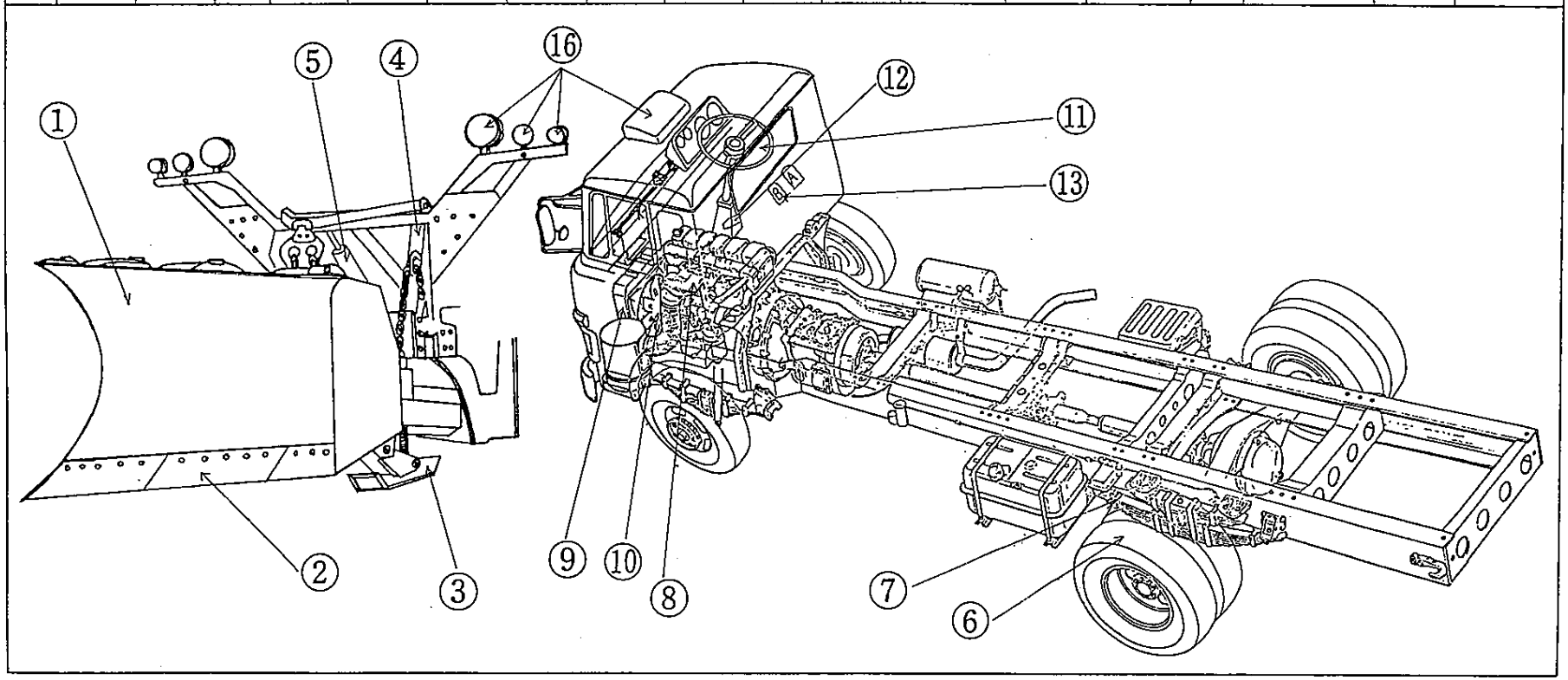
No.	作業装置						本体														その他
	1	2	3	4	5	6	7	8		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
点検箇所	オーガ・ブロア	カッチングエッジ(ボルト)	シュー(そり)	シュート	チェーン伝動機	ブロア減速機	デファレンシャルケース	タイヤ	タイヤチェン	動力分配機	トランスミッション	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	ヒーター クラクション ワイパー 計器類	各種灯具関係	復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
状態	亀裂 損傷	ゆるみ 摩耗	摩耗	亀裂	油もれ 油量	油もれ 油量	油もれ	空気圧 損傷	ゆるみ 摩耗	油もれ 油量	油もれ	油もれ 油量	水もれ 水量	ゆるみ 摩耗	重さ ガタ 遊び 油もれ	踏み代 機能	踏み代 きき具合 液量	引き代	機能	機能	
チェック																					



除雪トラック仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

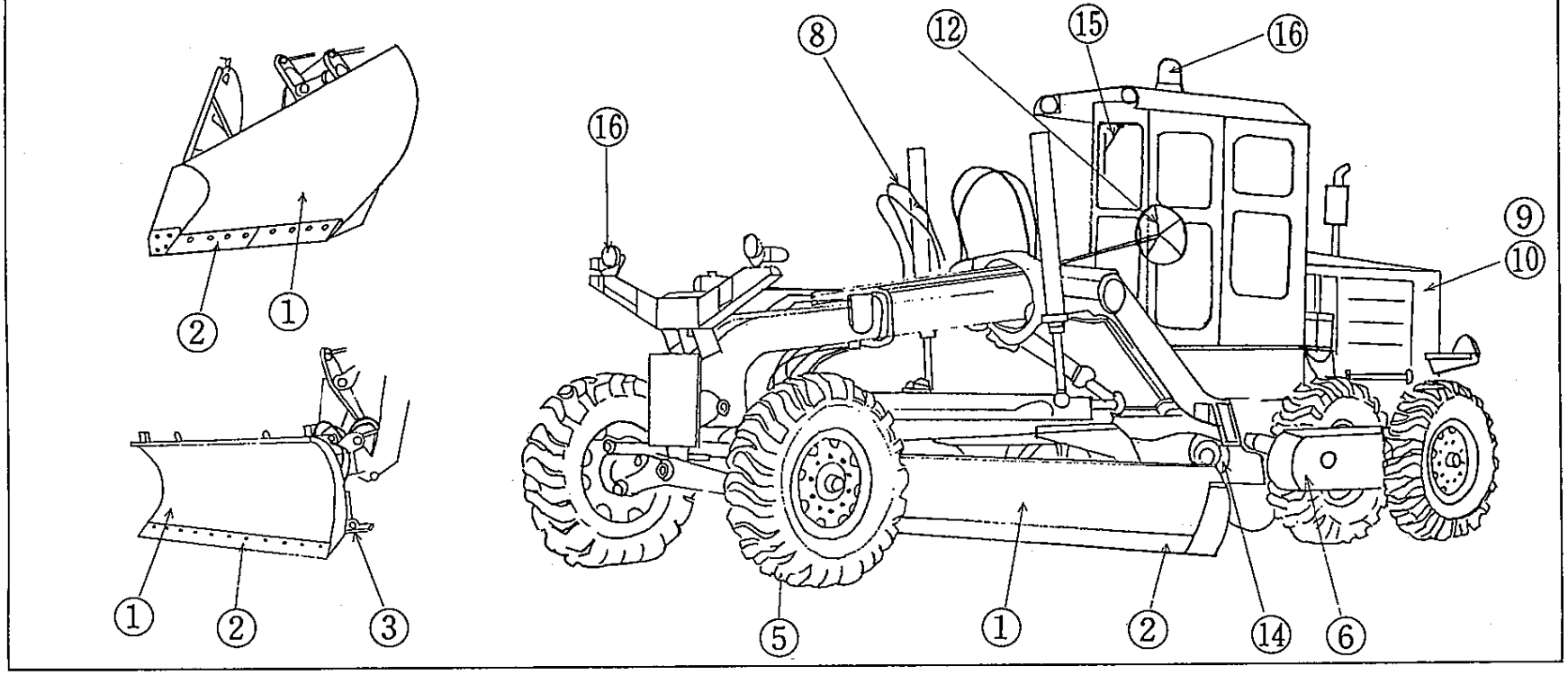
No.	作業装置					本体												その他
	1	2	3	4	5	6		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
点検箇所	除雪ブラウ	カッチングエッジ（ボルト）	シュー（そり）	保持装置	油圧系統	タイヤ	タイヤチェン	シャーシスプリング	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	計器類 ワイパー クラクション ヒーター	各種灯具関係	復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
状態	亀裂 損傷	ゆるみ 摩耗	摩耗	損傷 機能	油もれ 油量	空気圧 損傷	ゆるみ 摩耗	ずれ 損れ	油もれ 油量	水もれ 水量	ゆるみ 摩耗	重さ ガタ 遊び 油もれ	踏み代 機能	踏み代 きき具合 エアーもれ 液量	引き代	機能	機能	
チェック																		



除雪グレーダ仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

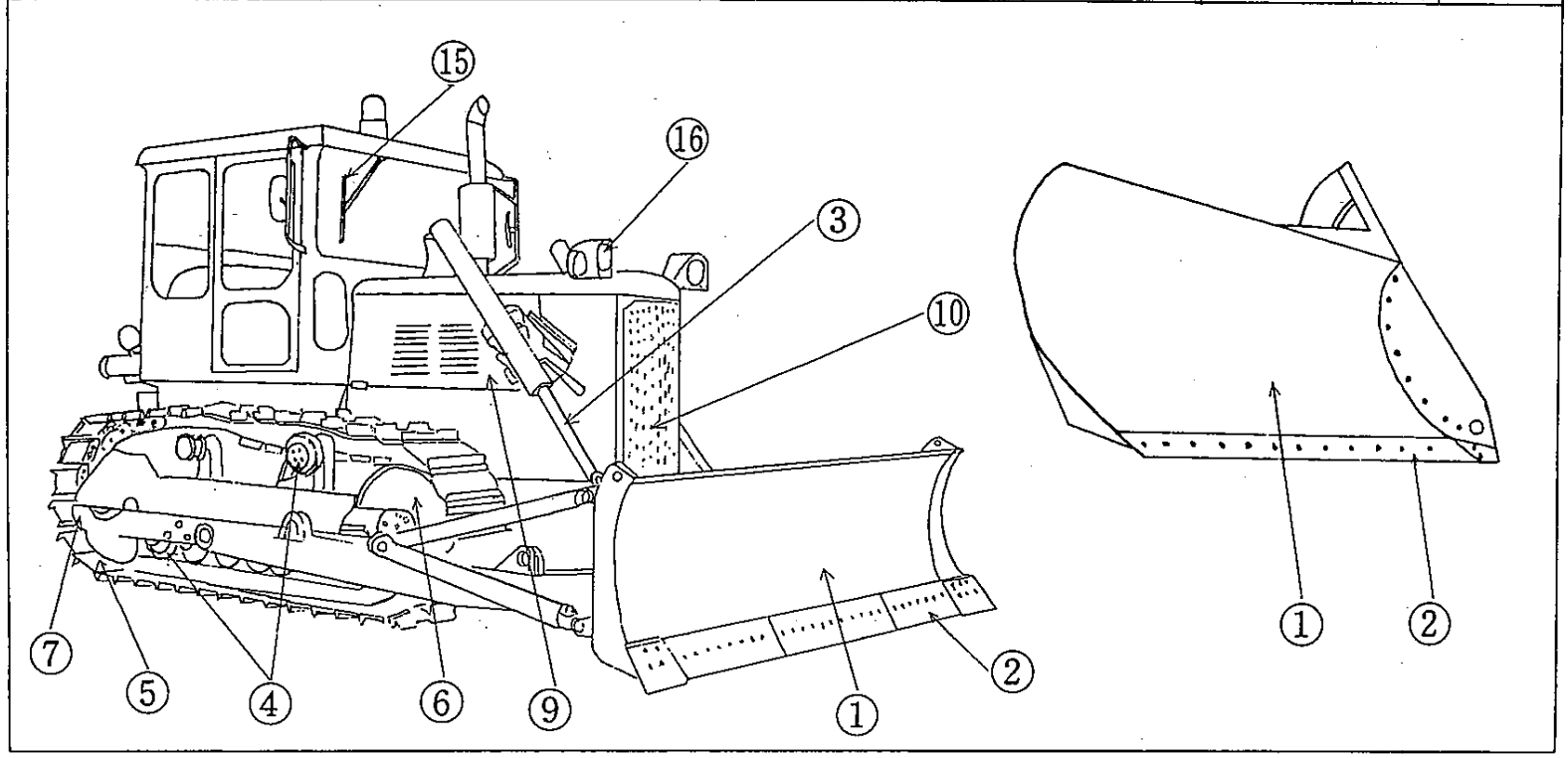
No.	作業装置				本体													その他
	1	2	3	4	5		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
点検箇所	除雪装置	カッチングエッジ	シュー(そり)	油圧系統	タイヤ	タイヤチェン	タンデムケース	トランスミッション	油圧系統	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	ステアリング機構	主ブレーキ	駐車ブレーキ	ヒーター クラクション ワイパー 計器類	各種灯具関係	復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
状態	亀裂 損傷	ゆるみ 摩耗	摩耗	油もれ	空気圧 損傷	ゆるみ 摩耗	油もれ	油もれ	損傷 油もれ 量	油もれ 量	水もれ 量	ゆるみ 摩耗	重さ ガタ 遊び 油もれ	踏み代 きき具合 エアーもれ 液量	引き代	機能	機能	
チェック																		



除雪ドーザ・スノーローダ(履帯式)仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

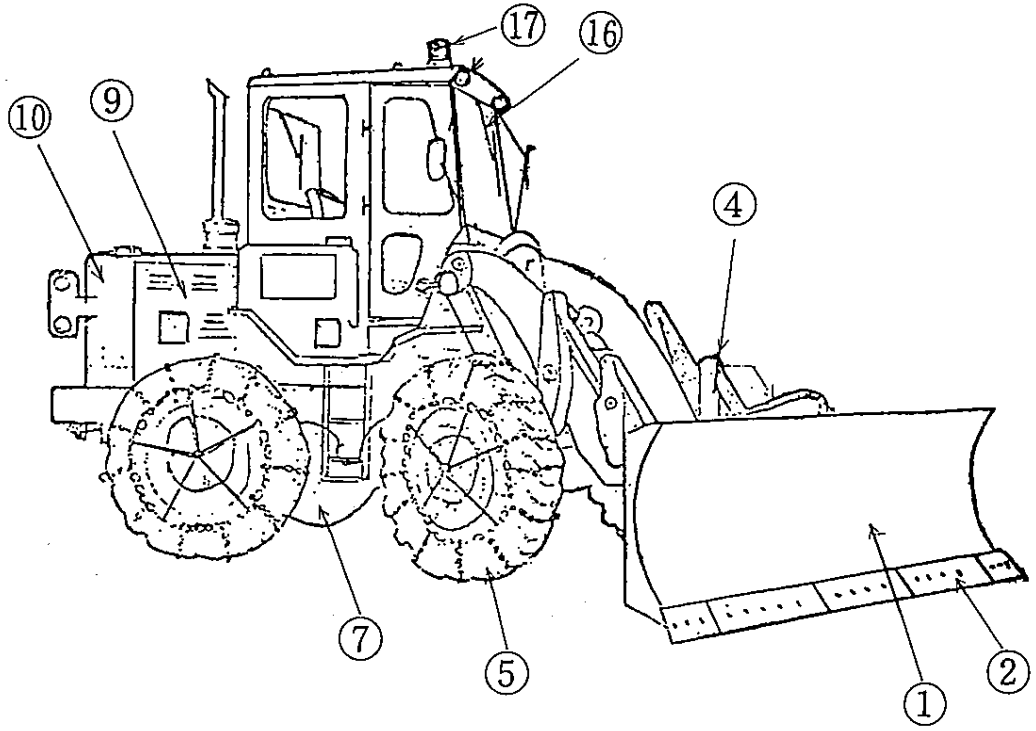
No.	作業装置			本体												その他
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
点検箇所	除雪装置	カッチングエッジ	油圧系統	キャリアローラ トラックローラ	シューボルト シュー	フロントアイドラ	ファイナルドライブ スプロケット	車体底部	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	油圧系統	クラッチ系統	ブレーキ系統	ヒーター クラクション ワイパー 計器類	各種灯具関係	復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
状態	亀裂 損傷	ゆるみ 摩耗	油もれ 油量	油もれ	ゆるみ 脱落	油もれ	油もれ	油もれ	油もれ 油量	水もれ 水量	ゆるみ 摩耗	油もれ 油量	機能	きき具合 踏み代	機能	機能	
チェック																	

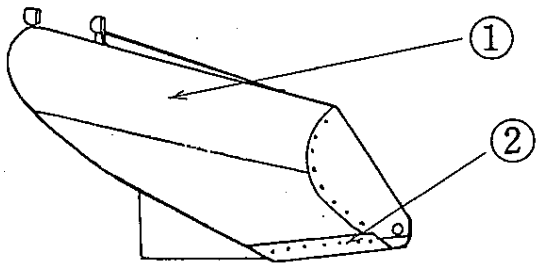


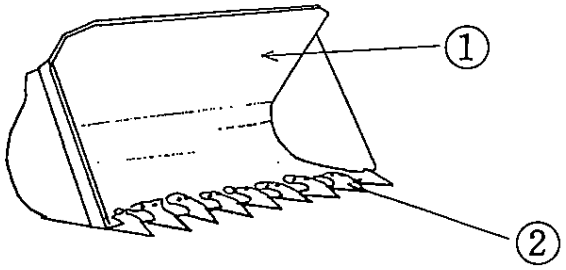
除雪ドーザ・スノーローダ(車輪式)仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

No.	作業装置				本体														その他
	1	2	3	4	5		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
点検箇所	除雪装置	カッチングエッジ又はツース	シュー(そり)	油圧系統	タイヤ	タイヤチェン	ファイナルドライブ	デファレンシャルケース	油圧系統	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	ステアリング機構	トランスミッション	主ブレーキ	駐車ブレーキ	計器類 ワイパー クラクション ヒーター	各種灯具関係	復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
状態	損傷 亀裂	摩耗 ゆるみ	摩耗	油量 油もれ	損耗 空気圧	摩耗 ゆるみ	油もれ	油もれ	油量 油もれ	油量 ゆるみ	水量 水もれ	摩耗 油もれ	油もれ 遊び タガ 重さ	油量 油もれ	液量 エアーもれ きき具合 踏み代	引き代	機能	機能	
チェック																			



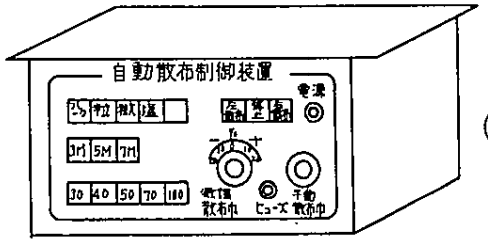




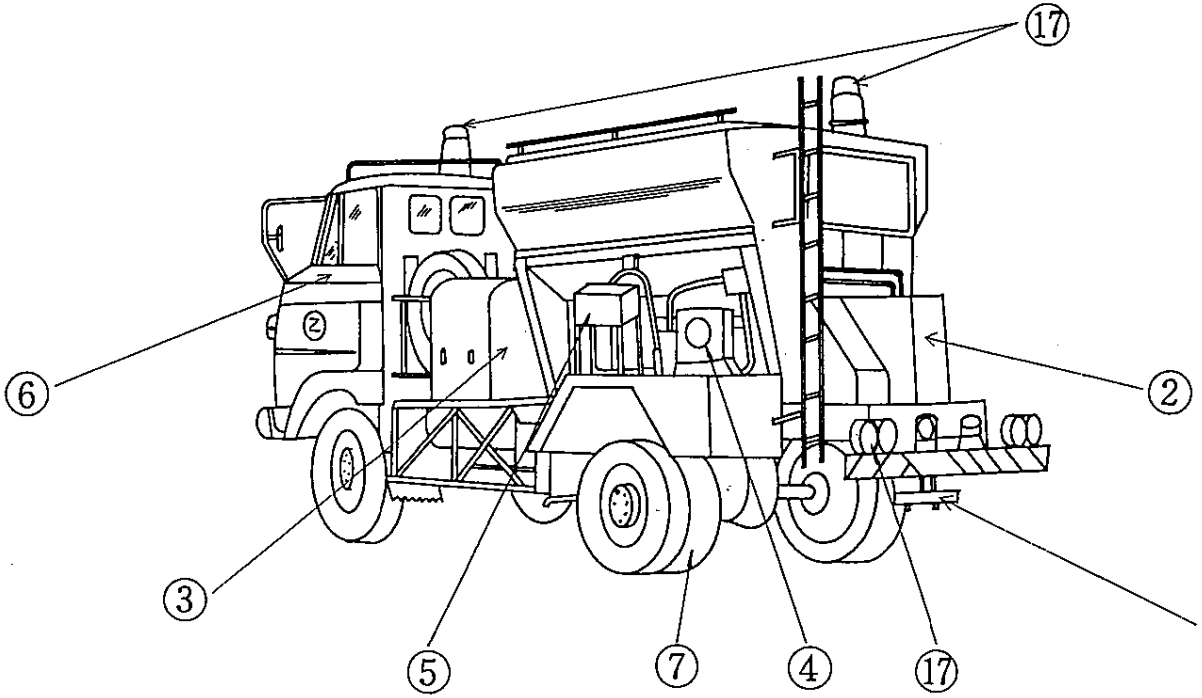
凍結防止剤散布車仕業点検表

機械番号	
点検年月日	
点検者氏名	

No.	作業装置						本体												その他
	1	2	3	4	5	6	7		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
点検箇所	散布円板	散布量調整ゲート	ベルトコンベヤー	減速機	油圧系統	自動制御機構	タイヤ	タイヤチェン	シャーシスプリング	エンジン	ラジエータ	ファンベルト	ステアリング機構	クラッチ系統	主ブレーキ	駐車ブレーキ	ヒーター クラクション ワイパー 計器類	各種灯具関係	復されているか 項目は完全に修 前日の不具合の
状態	ガタ 付着 機能	付着 機能	付着 錆 張り	ゆるみ 油もれ	損傷 油もれ 油量	ヒューズ スイッチ コンセント	空気圧 損傷	ゆるみ 摩耗	ずれ 切損	油もれ 油量	水もれ 水量	ゆるみ 摩耗	重さ ガタ 遊び 油もれ	踏み代 機能	踏み代 きき具合 エアーもれ 液量	引き代	機能	機能	
チェック																			



自動制御機構



Ⅱ. 定期点検表

ロータリ除雪車(HTR41)定期点検表

点検箇所		点検整備項目	15Hごと	50Hごと	100Hごと	250Hごと	備考
エンジン本体		各締付け部の増締め				○	
燃料系統		燃料の洩れ		○			
		エレメントの汚れ点検			○		
	フューエルフイルタ	沈澱物排出		○			
	フェールタンク	タンク内部の清掃				○	
	ノルズ及びノズルホルダの噴霧の点検					○	
潤滑系統	エンジンオイル	オイル交換			○		
	フルフローおよびバイパスオイルフイルタ	エレメントの汚れ点検(沈澱物排出)		○			
		エレメントの交換			○		
冷却系統	ファンベルト	調整	○				
	ウォータポンプ	ベアリンググリース給脂		○			
吸気系統	エアフイルタ	エレメント破損有無点検		○			
電気系統	電装品のターミナル接点、絶縁部、ゆるみ、損傷点検					○	
	バッテリー	ターミナル部の洗浄、油脂、塗布				○	
		液比重測定		○			
動力伝達系統	トルコン・減速機	ラインフイルターエレメント交換				○	
		超高圧ゴムホースの損傷、取付状態点検		○			
動力伝達系統	クラッチ	作用及ペダルの遊び及床板とのすきま点検		○			
		給脂		○			
	プロペラシャフト	主推軸軸給脂	○				
		リヤープロペラシャフト給脂	○				
		フロントプロペラシャフト給脂	○				
	デフアレンシャル	フロントデフアレンシャ油洩れ点検		○			
		リヤーデフアレンシャル油洩れ点検		○			
	変速機	オイル点検、補給、交換		○			
走行装置	ホイール他	クリップボルト、ハブボルトのゆるみの点検		○			
		リム、サイドリング及ホイールデスクの損傷点検		○			
		フロント、リヤーホイルーベアリングのがた点検				○	
かじ取り装置	ギャーボックス	油洩れ点検、交換		○			
		各締付部の点検		○			
	ロッド、アーム類	ゆるみ、がた、損傷点検、給脂		○			
	パワーステ装置	油洩れ点検、取付のゆるみ、がた点検		○			
ブレーキ装置	倍力装置	エアー洩れ点検		○			
	フートブレーキドラムライニング等	ドラムとライニングのスキマ点検			○		
	センタ・ブレーキ・ドラム及ライニング	ドラムの取付ゆるみ点検			○		
		ドラムとライニングのスキマ点検			○		
		No.1 プロペラシャフト点検、給脂	○				
作業装置	動力伝達系統	No.1 プロペラシャフト点検、給脂		○			
		No.2 プロペラシャフト軸受給脂	○				

点検箇所		点検整備項目	15H ごと	50H ごと	100H ごと	250H ごと	備考
作業装置	動力伝達系統	伝動機点検、補給、オイル交換		○			
		チェーン伝動点検、給脂、交換		○			
		チエーンホイル、テンション点検、給脂		○			
		スクリュー駆動軸点検、給脂	○				
	油圧装置	各油圧シリンダー、洩れ、キズ、作動点検		○			
		ゴムホース、配管、洩れ、キズ、点検		○			
	その他	ソリ 、異常摩耗、亀裂、変形点検		○			
		昇降リンク変形、亀裂点検			○		
		除雪枠変形、亀裂、異常摩耗点検			○		
		スクリュー、変形、亀裂、異常摩耗点検		○			
		ブロワー、変形、亀裂、異常摩耗点検		○			
		ブロワーケース変形、亀裂、異常、摩耗点検		○			
		カッテイングエッジ異常摩耗点検		○			
	万能シュート	伸縮、キャップ作動、変形、亀裂点検		○			
		オイルモータ－作動、洩れ点検		○			
		旋回機構、作動、変形、亀裂、点検		○			

ロータリ除雪車(HTR200)定期点検表

1

点検箇所		点検整備項目	15Hごと	50Hごと	100Hごと	250Hごと	備考
エンジン本体		各締付け部の増締め				○	
燃料系統		燃料の洩れ		○			
	フューエルフイルタ	エレメントの汚れ点検			○		
		沈澱物排出		○			
	フエーエルタンク	タンク内部の清掃				○	
	ノルズ及びノズルホルダの噴霧の点検					○	
潤滑系統	エンジンオイル	オイルの交換			○		
	フルフローおよびバイパスオイルフイルタ	エレメントの汚れ点検		○			
		エレメントの交換			○		
冷却系統	冷却水	交換(不凍液の場合は1シーズン毎)			○		
	ファンベルト	調整	○				
	ウォータポンプ	ベアリンググリース給脂		○			
吸気系統	エアフイルタ	エレメント破損有無点検		○			
電気系統	電装品のターミナル接点、絶縁部、ゆるみ、損傷点検					○	
	バッテリー	ターミナル部の洗浄、油脂、塗布				○	
		液比重測定		○			
動力伝達系統	オイルポンプ	ラインフイルターエレメント清掃				○	
	オイルモータ	超高圧ゴムモースの損傷、取付状態点検		○			
	クラッチ	作用及ペダルの遊び床板とのすきま点検		○			
		給脂		○			
	プロペラシャフト	主推軸軸給脂		○			
		リヤープロペラシャフト給脂		○			
		フロントプロペラシャフト給脂		○			
	デフアレンシャル	フロントデフアレンシャ油洩れ点検			○		
		リャーデフアレンシャル油洩れ点検			○		
	変速機	オイル点検、補給、交換		○			
走行装置	ホイール他	クリップボルト、ハブボルトのゆるみ点検		○			
		リム、サイドリング及ホイールデスクの損傷点検		○			
		フロント、リャーホイールベアリングのがた点検				○	
かじ取り装置	ギャーボックス	油洩れ点検、交換		○			
		各締付部の点検		○			
	ロッド、アーム類	ゆるみ、がた、損傷点検、給脂		○			
	パワーステ装置	油洩れ点検、取付のゆるみ、がた点検		○			
ブレーキ装置	ロッド、ケーブル	ロッド、ケーブル類のゆるみ、がた損傷点検		○			
	倍力装置	エアー洩れ点検		○			
	フートブレーキドラムライニング等	ドラムとライニングのスキマ点検			○		
	センタ・ブレーキ・ドラム及ライニング	ドラムの取付ゆるみ点検			○		
		ドラムとライニングのスキマ点検			○		
		No.1 プロペラシャフト点検、給脂		○			

点検箇所		点検整備項目	15Hごと	50Hごと	100Hごと	250Hごと	備考
作業装置	動力伝達系統	No.1 プロペラシャフト点検、給脂		○			
		No.2 プロペラシャフト軸受給脂		○			
		伝動機点検、補給、オイル交換		○			
		チエーン伝動点検、給脂、交換		○			
		チエーンホイル、テンション点検、給脂		○			
		スクリュー駆動軸点検、給脂		○			
	油圧装置	各油圧シリンダー、洩れ、キズ、作動点検			○		
		ゴムホース、配管、洩れ、キズ、点検		○			
	その他	ソリ異常摩耗、亀裂、変形点検		○			
		昇降リンク変形、亀裂点検			○		
		除雪枠変形、亀裂、異常摩耗点検			○		
		スクリュー、変形、亀裂、異常摩耗点検		○			
		ブロワー、変形、亀裂、異常摩耗点検		○			
		ブロワーケース変形、亀裂、異常、摩耗点検		○			
		カッテイングエッジ異常摩耗点検		○			
	万能シュート	伸縮、キャップ作動、変形、亀裂点検		○			
		オイルモーター作動、洩れ点検		○			
		旋回機構、作動、変形、亀裂、点検		○			

ロータリ除雪車(NR651・NR651S)定期点検表

1

点検箇所		点検整備項目	25Hrごと	50Hrごと	100Hrごと	備考
エンジン	エンジン本体	燃料および潤滑油の消費状態			○	
	バルブ機構	バルブクリアランスの点検調整			○	エンジン停止時0.45～0.50
	燃料系統	インジェクションポンプ			○	カム軸室の油量点検給油
		フエールフイルター清掃			○	
	潤滑油系統	オイルフイルタ内の沈殿物排出	○			
		〃 エレメントの交換			○	
		エンジン油の交換			○	25ℓ
	冷却水系統	ウォータポンプベアリングの給脂	○			
		ウォータポンプVベルトの張りの調整点検			○	
	吸気系統	オイルコンデンサオリフィスのつまり清掃	○			
		エアフイルタエレメントの点検			○	
	電気系統	スターティングモータ取付部の弛み点検			○	
		〃 〃 軸受への給油			○	
		ジエネレータ充電作用の点検	○			
		〃 Vベルトの張り調整点検			○	
		配線接続部のゆるみ、損傷点検			○	
	オイルポンプ	リリーフバルブ設定圧力の点検			○	
		〃 吐出圧力の点検			○	
車体	エンジン廻り	エンジン取付状態(ラバークッションのへたり ボルトのゆるみ)		○		
		ラジエータ取付状態(ボルトのゆるみ)		○		
		ホース、パイプの損傷、弛みのないこと		○		
		ラジエータ内面のゴミ等のないこと		○		
	足廻り	ハブナットのゆるみ		○		
		アクスル取付ボルトのゆるみ点検		○		
		クレイドル支えピングリース給脂			○	
		フロントアクスルジェッパジョイント部の給脂		○		
	かじ取り装置	ロッド、アーム類のゆるみ			○	
		各部の給油			○	
走り装置	制動装置	ホース、パイプの油もれ、損傷点検			○	
		駐車ブレーキレバー、ラチェットの損傷摩耗			○	
		ロッド、ケーブル類の取付状態点検			○	
		ブレーキオイルの点検と配管のもれ			○	
	クラッチ	クラッチペダルの遊び			○	
動力伝達	推進軸	ボルトのゆるみ点検		○		
		軸受、スプライン給脂		○		
		取付ボルトの点検		○		
作業装置	除雪装置	取付ボルトのゆるみ点検		○		
		油圧シリンダロッドの変形がないか		○		
		各部グリースの給油		○		

点検箇所		点検整備項目	25Hrごと	50Hrごと	100Hrごと	備考
作業装置	除雪装置	シャービンフランジの合せ目の隙間		○		0.2～0.3mm（1mm限度）
		シュート取付部のボルトのゆるみ		○		
		チェーンの張り点検			○	
	除雪装置	ソリのネジストッパーの確認		○		
	高雪堤処理装置	ボルトのゆるみ		○		
		グリース給脂		○		
	制御装置	ホースの損傷有無確認		○		
		ボルトのゆるみ		○		
	バッテリ	液面点検		○		極板上約10mm
		電解液のもれ確認		○		
		〃 の比重測定		○		20℃ 1.28
		端子のゆるみのないこと		○		
	エアー装置	エアー配管のゆるみともれ確認		○		

ロータリ除雪車(NR652・NR652S)定期点検表

1

点検箇所		点検整備項目	50Hrごと	100Hrごと	備考
エンジン	エンジン本体	かゝり具合および異音点検		○	
		低速および加速の状態点検		○	アイドリング550～600rpm
		排気の状態点検		○	
		シリンダヘッドおよびマニホールド各部の締付点検		○	
		弁スキマ点検		○	冷間時 吸気0.30～0.40 排気0.50～0.60
	潤滑装置	油の量および汚れ点検		○	
		エンジン油の交換		○	
	冷却装置	ファンベルトの損傷点検		○	
	電気系統	接続部のゆるみおよび損傷点検		○	
車体	エンジン廻り	エンジン取付状態(カップリングの心狂い)	○		
		ラジェータの取付状態	○		
		ホース、パイプの損傷ゆるみのないこと	○		
		ラジェータ内面にゴミ等のないこと	○		
	足廻り	ハブナットの弛み	○		
		リムの損傷点検	○		
		アクスル取付ボルトのゆるみ点検	○		
		グレイドル支えピングリース給油	○		
		フロントアクスルジェッパジョイント部給脂	○		
	かじ取り装置	ロッド、アーム類のゆるみ	○		
		各部の給油		○	
走り装置	制動装置	ホース、パイプの油もれ、損傷点検		○	
		駐車ブレーキレバーラチェットの損傷摩耗		○	
		ロッドおよびケーブル類の取付状態点検		○	
		ブレーキオイルの配管のもれ		○	
	クラッチ	クラッチペダルの遊び		○	
動力伝達	動力分配機	ボルトのゆるみ点検	○		
	推進軸	軸受、スプライン給脂	○		
		取付ボルトのゆるみ点検	○		
作業装置	除雪装置	取付ボルトのゆるみ点検	○		
		油圧シリンダロッドの変形がないか	○		
		各部グリースの給脂	○		
		シャーピンフランジの合せ目の隙間	○		0.2～0.3mm(1mm限度)
		シュート取付部のボルトのゆるみ	○		
		チェーンの張り点検	○		
		ソリのネジストッパの確認	○		
	高雪堤処理装置	ボルトの弛み	○		
		グリース給脂	○		
	制御装置(油圧)	ホースの損傷の有無確認	○		
		ボルトのゆるみがないか	○		

点検箇所		点検整備項目	50Hrごと	100Hrごと	備考
	バッテリー	液面点検	○		極板上約10mm
		電解液のもれ確認	○		
		〃 の比重測定	○		20℃で1.28
		端子のゆるみのないこと	○		
	エア装置	エア配管のゆるみともれ確認	○		

ロータリ除雪車(NR653)定期点検表

1

点検箇所		点検整備項目	50Hrごと	100Hrごと	備考
エンジン	エンジン本体	かゝり具合および異音点検		○	
		低速および加速の状態点検		○	アイドリング550～600rpm
		排気の状態点検		○	
		シリンダヘッドおよびマニホールド各部の締付点検		○	
		弁スキマ点検		○	冷間時 吸気0.3～0.4 排気0.5～0.6
	潤滑油系統	油の量および汚れ点検		○	
		エンジン油の交換		○	
	冷却水系統	ファンベルトの損傷点検		○	
	電気系統	接続部のゆるみおよび損傷点検		○	
車体	エンジン廻り	エンジンの取付状態	○		
		ラジェータの取付状態	○		
		ホース、パイプの損傷ゆるみのないこと	○		
		ラジェータ内面にゴミ等のないこと	○		
	足廻り	ハブナットのゆるみ	○		
		リムの損傷点検	○		
		アクスルの取付ボルトのゆるみ点検	○		
		後軸ばね支え部グリース給脂		○	
	かじ取り装置	ロッド、アーム類のゆるみ		○	
		各部の給油		○	
		センタービン部給脂	○		
走り装置	制動装置	ホース、パイプの油もれ、損傷点検		○	
		駐車ブレーキレバーラチェットの損傷摩耗		○	
		ロッドおよびケーブル類の取付状態点検		○	
		ブレーキオイルの配管のもれ		○	
	クラッチ	クラッチペダルの遊び		○	
動力伝達	動力分配機	ボルトのゆるみ点検	○		
	推進軸	軸受、スプライン給脂	○		
		取付ボルトのゆるみ点検	○		
作業装置	除雪装置	取付ボルトのゆるみの点検	○		
		油圧シリンダロッドの変形がないか	○		
		各部グリースの給脂	○		
		シャービンクランジの合せ目の隙間	○		0.2～0.3mm(限度1mm限度)
		シュート取付部のボルトのゆるみ	○		
		チェンの張り点検	○		
		ソリのネジストッパの確認	○		
	制御装置(油圧)	ホースの損傷の有無確認	○		
		ボルトのゆるみ	○		
	バッテリー	液面点検	○		極板上約10mm
		電解液のもれ点検	○		
		〃 比重測定	○		20℃で1.28
		端子のゆるみのないこと	○		
		エア配管のゆるみともれ確認	○		

ロータリ除雪車(R500B・R500C)定期点検

点検箇所		点検整備項目	25Hrごと	50Hrごと	100Hrごと	備考
エンジン	エンジン本体	排気の状態点検	○			
	潤滑油系統	エンジンオイルフィルタの点検、交換			○	
		バイパスフィルターの点検、清掃			○	
		エアブリーザの清掃			○	
	燃料系統	燃料フィルターの目詰り点検			○	
	冷却水系統	ファンベルト損傷の点検	○			
	電気系統	電気配線の点検	○			
車体	エンジン廻り	エンジンの取付状態の点検	○			
		ラジエーターの取付状態の点検	○			
		ホース、パイプの損傷、ゆるみのないこと			○	
		ラジェーター内面にゴミ等のないこと			○	
	足廻り	ハブナットのゆるみ	○			
		アクスル取付ボルトのゆるみ点検	○			
		クレイドル支えピングリース給油			○	
	かじ取り装置	各部の給油			○	
	制動装置	オートマチックドレーンバルブ点検	○			
動力伝達装置	トルコン	変速機、取付ボルトのゆるみ点検	○			
	歯車箱	プロペラシャフトの給脂		○		
	推進軸	変速機取付けボルトのゆるみ点検	○			
		変速機スクリーン清掃			○	
		ラインフィルター点検	○			
作業装置	油圧回路	ホース、損傷の有無確認		○		
	除雪装置	取付ボルトのゆるみ点検		○		
		油圧シリンダロッドの変形がないか		○		
		各部グリースの給脂		○		
		シャーピンフランジの合せの隙間		○		0.2～0.3mm (1mm限度)
		チェンの張り点検		○		
		ソリのネジストッパの確認		○		
	バッテリ	液面点検		○		極板上約10mm
		電解液のもれ確認		○		
		電解液の比重測定		○		20℃で1.28

スノーローダ(NR451)定期点検表

点検個所		点検整備項目	30Hrごと	50Hrごと	100Hrごと	備考
エンジン	エンジン本体	バルブ、クリアランスの調整			○	0.4mm
	潤滑油系統	オイルフィルターの洗浄 (バイパス)			○	
	燃料系統	燃料噴射ノズルのテスト			○	220^{+8}_{-0} kg/cm²
		燃料フィルターの沈澱物、水分の排出	○			
		燃料フィルターの洗浄および沪紙の交換			○	
		フィードポンプのストレーナーの洗浄			○	
	冷却水系統	ファンベルトの損傷の点検			○	
		冷却水の抜替え			○	
	電気装置	充電装置の点検			○	
		電気配線の点検			○	
	その他	各パイプジョイントの増締			○	
		エンジンの調子点検			○	
車体	エンジン廻り	エンジンの取付状態(カップリングの心狂い)		○		
		ラジェータの 〃 〃		○		
		ラジェータ内面にゴミ等のないこと		○		
	足廻り	ハブナットのゆるみ		○		
		アクスル取付ボルトのゆるみ点検		○		
		リヤアクスルジェッパジョイント部の給脂		○		
	かじ取り装置	ロット、アーム類のゆるみ		○		
		各部の給油		○		
走り装置	制動装置	ホース、パイプのエアもれ、損傷点検		○		
		駐車ブレーキレバー、ラチェットの損傷摩耗		○		
		ロット、ケーブル類の取付状態点検		○		
	クラッチ	クラッチペダルの遊び		○		40mm以下で調整
動力伝達	動力分配機	ボルトのゆるみ点検		○		
	推進軸	軸、スプライン給脂		○		
		取付ボルトのゆるみ点検		○		
作業装置	除雪装置	取付ボルトのゆるみ点検		○		
		油圧シリンダーロッドの変形がないか		○		
		各部グリースの給脂		○		
		シャービンフランジの合せ目の隙間		○		0.2～0.3mm (限度1mm)
		シュート取付部のボルトのゆるみ		○		
		チェーン張り点検		○		
		ソリのネジストッパの確認		○		
	制御装置	ホースの損傷の有無確認		○		
		ボルトのゆるみがないか		○		
	バッテリ	液面点検		○		
		電解液のもれ確認		○		
		〃 の比重測定		○		20℃で1.28
		端子のゆるみのないこと		○		
	エアー装置	エア配管のゆるみともれ確認		○		

除雪トラック定期点検表

1

点検箇所		点検整備項目	1週間毎	1ケ月毎	3ケ月毎	備考
エンジン	エンジン本体	かかり具合、及び異音		○		
		低速及加速の状態		○		アイドリング400～450 rpm
		排気の状態		○		
		エアークリーナエレメントの状態		○		作業状態により短縮
	潤滑装置	油洩れ点検		○		
		油の汚れ状態		○		
		オイルエレメントの詰り点検又は交換			○	状況により短縮
	燃料装置	燃料洩れの点検		○		
		燃料エレメントの詰り点検又は交換			○	
		噴射ノズルの圧力及噴霧状態			○	220kg/㎠
		噴射時期点検			○	B. T. D. C16°
	冷却装置	ラジエーターキャップの機能点検		○		
		ファンベルトの弛み、損傷		○		中間部たわみ10㎜
		ホース、パイプの損傷		○		
		ラジエーター内部にゴミ等のないこと		○		
動力伝達装置	クラッチ及ミッション	クラッチの液量		○		
		ミッションの油洩れ		○		
	プロペラシャフト	連結部の弛み			○	
		センターベアリングのガタ			○	
		スプライン部の給脂	○			
		ジョイント部の給脂	○			
	デフアレンシャル	油洩れ		○		
		キャリア取付けボルトの弛み			○	
ステアリング装置	ギャーボックス及パワーステアリング	油洩れ		○		
		取付けの弛み			○	
		パワーステアリング機構の油洩れ		○		
		ホース、パイプの状態		○		
		パワーオイルの量		○		
	ロッド及アーム類	弛み及ガタ		○		
制動装置	ロッド及ケーブル類	弛み、ガタ及損傷		○		
	ホース及パイプ類	洩れ及損傷、取付状態		○		
走行・懸架装置	フロントアクスル	キングピン部への給油状態	○			
	クリップボルト	弛み		○		打音点検
	ホイールデスク	亀裂及変形		○		
	フロントホイールベアリング	ガタ			○	ジャッキアップにて行う
	シャシバネ	損傷		○		
	ショックアブソーバー	油洩れ		○		
		損傷及取付けのガタ		○		
除雪装置	配管各部	油洩れ、損傷の点検	○			

点検箇所		点検整備項目	1週間毎	1ケ月毎	3ケ月毎	備考
除雪装置	チェーン	○ホイスト用及補助チェーンの亀裂の有無	○			
	油圧シリンダ	○ホイストロットの変形の有無		○		
	滑走板(ソリ)	○摩耗状態	○			
	各部給脂	○給脂の状態	○			

除雪グレーダ定期点検表

点検箇所		点検整備項目	50Hごと	250Hごと	500Hごと	備考
エンジン	エンジン本体	バルブクリアランスの点検、調整		○		
		クランクケースブリーザのエレメント交換		○		
	潤滑油系統	オイル交換			○	ターボ付250Hごと
		オイルフイルタ交換		○		
		バイパスフイルタ交換			○	
	燃料系統	燃料フイルタのエレメント交換			○	
		燃料タンクの水抜き	○			
		燃料フイルタの水抜き	○			
	冷却系統	ファンベルトの弛み点検調整		○		
		コロージョンレジスタ、エレメント交換			○	
		ラジェータフィンの清掃、点検			○	
		水ポンプの給脂		○		
	空気系統	エアクリーナ外筒エレメントの清掃		○		
	電気系統	バッテリの液面点検		○		
車体	かじ取り装置	駐車ブレーキレバーストローク調整		○		
		ステアリングシャフトの給脂		○		
		タイロッドの給脂		○		
		ユニバーサルジョイントの給脂		○		
		アームブッシュの給脂	○			
		ボールスタッドの給脂	○			
		前車軸各リンク、ピンの給脂	○			
	制動装置	フートブレーキの調整		○		
	パワーライン	クラッチ及びトランスミッションオイル点検		○		
		ファイナルドライブケースオイル点検		○		
		タンデムドライブケースオイル点検		○		
		ユニバーサルジョイントの給脂		○		
	足廻り	ホイールハブナットの弛み点検		○		
作業機・その他	作業機系統	ブレード回転機ギャーケースオイル点検		○		
		操向ギヤケースオイル点検		○		
		サークル案内金具のスキマ点検、調整			○	
		サークル、ピニオンギヤー給脂	○			
		ブレードガイドレールの給脂	○			
		その他の給脂		○		

除雪ドーザ、スノーローダ(履帯式)定期点検表

点検箇所		点検整備項目	50Hごと	100Hごと	250Hごと	備考
エンジン	動力装置	プライマリ燃料エレメント清掃	○			
		燃料フイルタ排水	○			
		ファンベルトの張り損傷			○	
		ファンプリー給脂			○	
		ファン、ベアリング給脂			○	
		ウォータポンプベアリング給脂			○	
		エアクリーナ、エレメント(外側)清掃又は洗浄			○	
		〃 〃 (内側)清掃又は洗浄			○	
		燃料エレメント交換			○	
		エンジン、オイル交換			○	
		エンジン、オイルエレメント交換			○	機種により異なる
		エンジン、エイルエレメント、プリーザ清掃			○	
		燃料タンク、給油、ストレーナ清掃			○	
		燃料タンク、給油キャップ清掃			○	
本体	動力伝達装置	ファイナル、ドライブ室油量、汚れ	○			
		クラッチ点検調整			○	
		トランスミッション、フイルタ、エレメント交換			○	
		トランスミッション、マグネチック、ストレナ洗浄			○	
	操向装置	ステアリング、クラッチ室ドレーンの油抜き	○			乾式のみ
		ステアリング、クラッチ及びブレーキ点検調整			○	
		ブレーキ(パーキング、ブレーキ含)			○	
	走行装置	イコライザ、スプリング、ピン給脂	○			
作業装置	作業装置	ブルトーザ、シリンダーサポート、ベアリング給脂	○			
		ブルドーザ、シリンダー下部、トラニオン給脂	○			
		ブルドーザ、チルトソケット及びボール給脂	○			
		チルトシリンダーコントロール、リンケージ給脂	○			
		油圧系統リンケージ、ピボット給脂	○			
		バケットポジショナー、チューブ給脂	○			
		ブルドーザ、ダイヤゴナル、アーム調整		○		
		ブルドーザ、チルト、ブレースのボール調整		○		
		バケット、ポジショナー点検調整		○		
		リフト、キックアウト点検調整		○		
		バケット、ピン給脂		○		
		ハイドリック、シリンダー、シム調整			○	
	その他	バッテリ液量、比重	○			
		グロープラグ及びスイッチ			○	

注) 1 エアクリーナ、エレメントの清掃及び交換
(イ)エアクリーナ、エレメント(外筒)清掃はインジケータに赤色バンドが表示されたとき実施して下さい。
(ロ)エアクリーナエレメント(外筒)を清掃してもすぐ赤色バンドが見えたり6～8回も清掃したエレメントは新品と交換します。
(ハ)エアクリーナエレメントを交換してもなおインジケータに赤色バンドが見える場合は内筒エレンントンの清掃を行ないます。
(ニ)又内筒エレメントを清掃してもインジケータに赤色バントが表示される時は内筒エレメントを交換して下さい。
注) 2 エンジン回転時、燃料圧力計がOUT又は赤色表示している場合はプライマリ燃料フイルタの洗浄又は燃料エレメントの交換を行ないます。

除雪ドーザ、スノーローダ(車輪式)定期点検表

点検箇所		点検整備項目	50Hごと	100Hごと	250Hごと	備考
エンジン	動力装置	燃料フィルターの排水	○			
		エンジンオイル交換			○	
		エンジンオイルエレメント交換			○	
		〃 〃ブリーザ洗浄			○	
		ファンベルト張り損傷			○	
		ファンプーリベアリング給脂			○	
		ウォータポンプベアリング給脂			○	
		燃料タンク給油口キャップ洗浄			○	
本体	動力伝達装置	センタドライブシャフトスプライン給脂	○			
		ドライブシャフトサポート給脂		○		
		〃 〃 スプライン給脂		○		
		デフファイナル油量(前後)		○		
		ミッションエレメント交換			○	
	操向装置	リヤアクスルトラニオンベアリング給脂	○			
		ステアリング機構給脂	○			
		ステアリングブースタ及び コントロールロッドソケット給脂	○			
		フレーム下部ピボットベアリング給脂		○		屈折式
		ステアリングギヤハウジング油量			○	
		〃 フオローアップリンケージ給脂			○	
		〃 シリンダベアリング給脂			○	
作業装置	作業装置	バケットピボットピン給脂	○			
		〃 ポジショナ点検		○		
		〃 〃 ベアリング給脂		○		
		リフトキックアウト点検		○		
		〃 〃 〃 ベアリング給脂		○		
	その他	バッテリ液量、比重		○		

注) 1 エアクリーナエレメント清掃及び交換
(イ)エアクリーナエレメント(外筒)清掃はインジケータに赤色バンドが表示された時実施して下さい。
(ロ)エアクリーナエレメント(外筒)を清掃してもすぐ赤色バンドが見えたり6～8回も清掃したエレメントは新品と交換します。
(ハ)エアクリーナエレメントを交換してもなおインジケータに赤色バンドが見える場合は内筒エレメントの清掃を行ないます。
(ニ)又内筒エレメントを清掃しても同上であれば内筒エレメントを交換して下さい。
注) 2 エンジン回転時燃料圧力計がＯＵＦ又は赤色表示している場合はプライマリ燃料フィルタの洗浄又はエレメントの交換を行ないます。

凍結防止剤散布車定期点検表

1

点検箇所		点検整備項目	1週間ごと	1ケ月又は50Hごと	備考
エンジン	エンジン本体	低速、加速状態		○	
		バルブクリアランス		○	吸気0.25mm　排気0.25mm
	エアクリーナ	エレメントの汚れ		○	
	潤滑系統	オイル漏れ		○	
		オイルの汚れ		○	
	燃料系統	燃料漏れ		○	
		燃料フィルタ清掃		○	
		燃料給油ポンプ洗浄		○	
車体	動力伝達系統	クラッチ液量		○	
		クラッチペタル遊び		○	30mm限度
		トランスミッション油漏れ		○	約5ℓ
		ディファレンシャル油漏れ		○	
	かじとり装置	ギアボックス油漏れ		○	
		ロッド、アームゆるみ、ガタ		○	
	制動装置	ロッド、ケーブルゆるみ、損傷		○	
		ホース、パイプ漏れ、損傷		○	
		倍力装置クリーナの詰まり		○	
		ブレーキドラムとライニングのすき間		○	限度0.5mm
走行装置	ホイール	クリップボルト、ハブボルトのゆるみ		○	
		リム、サンドリンク、ホイールディスクの損傷		○	
緩衝装置	取付け部、連結部	ゆるみ、損傷		○	
電気装置	充電装置	充電作用		○	
	バッテリ	液量		○	
	電気配線	接続部のゆるみ、損傷		○	
油圧系統	作動油タンク	油量	○		毎日が望ましい
		乳化度		○	乳白色の場合は交換
		水ぬき		○	
	配管・ホース類	油漏れ、錆	○		
	油圧ポンプ	油漏れ	○		
	油圧モーター	油漏れ		○	
	P.T.Oジョイント	グリースアップ		○	
ベルトコンベヤ	ユニバーサルジョイント	グリースアップ		○	
	カップリング	損傷		○	
		止めネジゆるみ		○	
	駆動チェーン	グリース塗布		○	
	軸受	洗滌	○		
		グリース塗布		○	

点検箇所		点検整備項目	1週間毎	1ケ月又は50H毎	備考
ベルトコンベヤ	コンベヤチェーン	点滴給油	○		
		グリース塗布		○	
	給油タンク	油量	○		
	テイクアップユニット	錆 洗滌	○		水 洗
	裏側の薬剤	洗 浄	○		
	コンベヤフレーム	薬剤の付着洗浄	○		
	作用	応答速度	○		スイッNo.後2～3秒にて作動
		円滑性	○		
散布円盤部	散布円盤の歪み			○	
	駆動シャフトの歪み			○	
	放出筒の歪み			○	
	作用	円滑性	○		
	可動羽根	角 度	○		
		蝶ナットの有無	○		
ゲート	案内溝	薬剤の付着洗浄	○		
	作用	円滑性	○		
		高 さ		○	フレーク7m100g の時180mm
電気装置	コントロールアンプ	予備フューズの有無	○		
		コネクターのはずれ		○	メイン電源を切り調査
	作業灯	球切れ等	○		
	黄色回転灯	〃	○		
	残量確認装置	回転羽根の作用	○		装備車のみ
ボディー	マンホール	ヒンジ給油	○		
	点検窓	ヒンジ給油	○		
	駆動部カバー	ヒンジ給油	○		

Ⅲ. 取扱い上の注意事項

1．ロータリ除雪車(ＨＴＲ41)

1）**シャーピンは純正品以外使用しないで下さい。**動力伝達系統や作業装置に思わぬ故障や破損を生じます。

2）**暖機運転を行なわないで車の発進をしてはいけません。**エンジン及び各部の潤滑不足による摩耗、焼き付等を起し大きな故障の原因となります。

3）**オーバーランはさけて下さい。**下り坂では車両重量による惰力で発生するサージ圧力をフートブレーキを踏んで殺し走行用ポンプを保護して下さい。

4）**除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。**下降防止をしないと油圧シリンダーで重い除雪装置を支持することとなり回送中にホースの破損等により急降下し思わぬ大事となる恐れがあります。

5）**エンジンを運転したままの給油脂等は絶対にしないで下さい。**衣服の袖口及び身体がスイッチやレバー等に触れたりすると車が移動したりオーガなどが突然まわり出しそれにまき込まれたりして思わぬ大事故になる事があります。

6）**作業終了後ただちにエンジンを停止しないで下さい。**排気ターボは高温で高速回転しています。急に停止すると油膜切れにより軸受メタルの焼付等の原因となります。（アイドリング５分間後停止して下さい。）

7）**除雪作業後は除雪装置に付着した雪を落し各作動部分が凍結しない様注意して下さい。**

8）**エアータンクのドレーンより水扱きする事を忘れないで下さい。**排水を怠ると凝水がタンク及びブレーキパイプライン内で凍結し制動不能になる事があり非常に危険です。

9）**冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのはさけて下さい。**冬期間はブレーキドラム内が凍結する恐れがあります。長時間の駐車には除雪装置を下降させてタイヤに歯止めを使用して下さい。

10）**オイルコンデンサーのドレーンを開いて廃油を排出する事を忘れないで下さい。**排出を怠ると廃油が燃焼室内で異状燃焼を起しピストンの破損原因となります。（２サイクルエンジン搭載車）

2．ロータリ除雪車(ＨＴＲ200)

1）**シャーピンは純正品以外使用しないで下さい。**動力伝達系統や作業装置に思わぬ故障や破損を生じます。

2）**エンジン始動時はハンドルは動かさないで下さい。**センターピン付近などで人間がいた場合車体にはさみ込むなどの危険があります。

3）**暖機運転を行なわないで、車の発進をしてはいけません。**エンジン及び各部の潤滑不足による摩耗、焼き付等を起し大きな故障の原因となります。

4）**エンジンを運転したままの給油脂等は絶対にしないで下さい。**衣服の袖口及び身体がスイッチ

レバー等に触れたりすると車が移動したり、オーガなどが突然まわり出し、それにまき込まれたりして、思わぬ大事故になる事があります。

5）**オーバーランはさけて下さい。**坂道を下る時は車両重量による惰力で発生するサージ圧力をフートブレーキを踏んで殺し走行用ポンプを保護して下さい。

6）**オイルポンプの油温計の指針が80°C付近の長時間走行はさけて下さい。**作動油が高温になるとポンプモーター内部の部品が高温に耐えられなくなり損傷したり、かじり油膜切れ等により故障の原因となります。この様な時はチェンジダウンして下さい。

7）**急坂の場合は、坂の手前で変速後登坂して下さい。**走行中は高、中低速の変速は出来ません。

8）**クラッチペダルは作業用の高低速レバー操作以外絶体に使用しないで下さい。**クラッチ内部のクラッチフェーシング等の部品を傷めすべり、切れ不良等の故障原因になります。

9）**除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。**下降防止をしないと油圧シリンダーで重い除雪装置を支持することとなり、回送中にホースの破損等により急降下し思わぬ大事故となる恐れがあります。

10）**作業終了後、ただちにエンジンを停止しないで下さい。**排気ターボは高温で高速回転しています。急に停止すると油膜切れにより軸受メタルの焼付等の原因となります。（アイドリング5分間後停止して下さい）

11）**除雪作業後は除雪装置に付着した雪を落し各作動部分が凍結しない様注意して下さい。**

12）**エアータンクのドレーンにより水抜きする事を忘れないで下さい。**排水を怠たると凝水がタンク及びブレーキパイプライン内で凍結し制動不能になる事があり非常に危険です。

13）**冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのはさけて下さい。**冬期間はブレーキドラム内が凍結する恐れがあります。長時間の駐車には除雪装置を下降させてタイヤに歯止めを使用して下さい。

3．ロータリ除雪車（NR651，NR651S）

1）**シャーピンは規定のもの以外使用しないで下さい。**動力伝達系や作業装置が故障又は破損します。シャーピン用の穴は6個ありますが、シャーピンの使用本数は、2本ですので、2個のみ使用して下さい。

2）**ブロアケース内部に雪や氷が凍結した状態での始動はさけて下さい。**凍結したまま始動するとクラッチの摩耗、焼損の原因となります。

3）**除雪装置についた雪を落さないで油圧シリンダを作動させないで下さい。**雪を落さないで作動させると思わぬ部分に無理がかかり、破損することがあります。

4）**走行用サクションフイルタの指針が250mmHg以上を指示している時は発進又は運転はやめて下さい。**吸入圧力が高いと、チャジポンプの圧力が減じポンプモーターが故障します。始動時低温の場合は250mmHgをこえることがあるが、以下になるまで暖機運転を続けて下さい。10分以上経っても下らない場合はエンジンを停止しフイルタの点検又はエレタントの交換を行って下さい。

5）**暖機運転を行わないでの車の発進はさけて下さい。**冬期は特にオイルの粘度が高くなっているので、暖機運転により各部の作動を円滑にして下さい。

6）**除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。**下降防止をしないと、除雪装置は油圧シリンダで支持されるので、ホースの切損等により急降下すると、思わぬ大事故になることがあります。

7）**ギヤチエンジはエンジン高速回転では行わないで下さい。**　高速回転でギャチェンジすると激しいギャ鳴りをおこし、ギャの損耗と破損の原因となります。従ってギャチエンジはエンジンアイドリング状態で行って下さい。

8）**走行作動油の温度計の指示が80°C以上で長時間運転しないでください。**高温で長時間使用すると、ポンプ、モータ内部部品の膨脹、摺動面のカジリ、油膜切れ等により故障の原因となります。

9）**前後進レバーでブレーキ操作をしないで下さい。**高速で回送中、前後進レバーを急激に減速側に戻すと、車の慣性力により後進側の圧力が急上昇するため、ポンプ、モータ内のピストンとシュー間で過大な引張力が作用し内部破損の原因となります。

10）**前後進レバーは急激に操作しないで下さい。**理由～9項に同じ

11）**オーバランはさけて下さい。**下り勾配では40km／h以上の速度が出ることがありますが、その場合はモータは車輪によって逆駆動され、バキューム現象が出るため、ピストン摺動面の油膜切れによる故障につながります。

12）**ピッチングしながらの走行はさけて下さい。**道路条件により回送中激しいピッチング現象が出たとき、できるだけ早めにフートブレーキを踏んで減衰させて下さい。

13）**「シュート放雪↔直接放雪」の切換はブロアケース内に雪がある間は行わないで下さい。**ブロアケース内に雪が残っている状態で切換えるとフロントガラス等を破損することがあります。

14）**ソリを使う時はシリンダーで押しつけることは一般的にはさけて下さい。**シリンダで押しつけると、ソリの摩耗を早めますので、フローテイング（浮き位置）状態にして除雪して下さい。

15）**高雪堤処理作業時は高雪堤の圧力計指示が140kg／cm²では作業はやらないで下さい。**140kg/cm²を示したままの時は、リリーフバルブが働いて高雪堤処理装置が停止しており、無理押している状態です。100kg／cm² 以下で運転して下さい。

16）**けん引される場合はミッションのギャを入れたままで引張らないで下さい。**ギャを中立にしないでけん引するとギャ又はポンプ、モータが破損します。

17）**冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのはさけて下さい。**寒冷時、パーキングブレーキを使用するとブレーキドラムが凍結することがあります。タイヤに歯止めをして、除雪装置を路面に接地させて下さい。

18）**エアタンクのドレーンより凝水を排出することを忘れないで下さい。**排水を怠ると、凝水がブレーキパイプライン内で凍結することがあるので、毎日終業時実施下さい。

19) **エンジンオイルコンデンサーより排油することを忘れないで下さい。**排出を怠ると廃油がピストン内で異常爆発し、ピストンが破損することがあります。

4．ロータリ除雪車（ＮＲ652，ＮＲ652Ｓ）

1）**シャービンは規定のもの以外使用しないで下さい。**動力伝達系や作業装置が故障又は破損します。

2）**ブロアケース内部に雪や氷が凍結した状態での始動はさけて下さい。**凍結したまま始動するとクラッチの摩耗、焼損の原因となります。

3）**除雪装置についた雪を落さないで、油圧シリンダを作動させないで下さい。**雪を落さないで作作動させると思わぬ部分に無理がかかり、破損することがあります。

4）**走行用サクションフイルタの指針が250mmHg 以上を指している時は発進又は、運転はやめて下さい。**吸入圧力が高いと、チャージポンプの圧力が減じポンプモータが故障します。始動時低温の場合は250mmHg をこえることがあるが、以下になるまで暖機運転を続けて下さい。10分以上経っても下らない場合はエンジンを停止し、フイルタの点検又はエレメントの交換を行って下さい。

5）**暖機運転を行わないでの車の発進はさけて下さい。**冬期は特にオイルの粘土が高くなっているので、暖機運転により各部の作動を円滑にして下さい。

6）**除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。**下降防止をしないと、除雪装置は油圧シリンダで支持されるので、ホースの切損等により急降下すると、思わぬ大事故になることがあります。

7）**ギャチエンジはエンジン高速回転では行わないで下さい。**高速回転でギャチエンジすると激しいギャ鳴りをおこしギャの損耗と破損の原因となります。従ってギャチエンジはエンジンアイドリング状態で行って下さい。

8）**走行作動油の温度計の指示が88°Ｃ以上で長時間運転しないで下さい。**高温で長時間使用すると、ポンプ・モータ内部部品の膨脹、摺動面カジリ、油膜切れ等により故障の原因となります。

9）**「シュート放雪↔直接放雪」の切換はブロアケース内に雪がある間は行わないで下さい。**ブロアケース内に雪が残っている状態で切換えるとフロントガラス等を破損することがあります。

10）**ソリを使う時はシリンダで押しつけることは一般的にはさけて下さい。**シリンダで押しつけるとソリの摩耗を早めますのでフローテインブ（浮き位置）状態にして除雪して下さい。

11）**高雪堤処理作業時は高雪堤の圧力計指示が140kg/cm²では作業はやらないで下さい。**140kg/cm²を示したままの時は、リリーフバルブが働いて高雪堤処理装置が停止しており、無理押ししている状態です。100kg/cm² 以下で運転して下さい。

12）**除雪装置の左右チルト操作において左右差は5°以上にならない様にして下さい。**リリーフ圧のセット以上迄チルトさせると取付部に無理がかかり変形する事があります。

13）**無理なステアリング操作はさけて下さい。**前輪が横ズレする様な力をかけると、除雪枠の変形

が生ずるので強引なステアリング操作はさけて下さい。高積雪、硬雪の場合には特に注意して下さい。

14) **シュートの起立、倒伏時はエンジン高速回転では行わないで下さい。**エンジン回転を高くするとシュートの起立、倒伏が急動作となり非常に危険です。

15) **けん引される場合はミッションのギャを入れたままで引張らないで下さい。**ギャを中立にしないでけん引すると、ギャ又はポンプモータが破損します。

16) **冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのはさけて下さい。**寒冷時、パーキングブレーキを使用するとブレーキドラムが凍結することがあります。タイヤに歯止めをして、除雪装置を路面に接地させて下さい。

17) **エアタンクのドレーンより凝水を排水することを忘れないで下さい。**排水を怠ると、凝水がブレーキパイプライン内で凍結することがあるので、毎日終業時実施下さい。

5. ロータリ除雪車(NR653)

1) **シャーピンは規定のもの以外使用しないで下さい。**動力伝達系統や作業装置が故障又は破損します。

2) **ブロアケース内部に雪や氷が凍結した状態での始動はさけて下さい。**凍結したまま始動するとクラッチの摩耗、焼損の原因となります。

3) **除雪装置についた雪を落さないで、油圧シリンダを作動させないで下さい。**雪を落さないで、作動させると、思わぬ部分に無理がかかり、破損することがあります。

4) **走行用サクションフイルタの指針が250mmHg以上を指示している時は発進又は運転はやめて下さい。**吸入圧力が高いと、チャージポンプの圧力が減じポンプ、モータが故障します。始動時低温の場合は250mmHgをこえることがあるが、以下になるまで暖機運転を続けて下さい。10分以上経っても下らない場合はエンジンを停止し、フイルタの点検又はエレメントの交換を行って下さい。

5) **暖機運転を行わないでの車の発進はさけて下さい。**冬期は特にオイルの粘度が高くなつているので暖機運転により各部の作動を円滑にして下さい。

6) **除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。**下降防止をしないと、除雪装置は油圧シリンダで支持されるので、ホースの切損等により急降下すると、思わぬ大事故になることがあります。

7) **ギャチェンジはエンジン高速回転では行わないで下さい。**高速回転でギャチェンジすると激しいギャ鳴りをおこし、ギャの損耗と破損の原因となります。従って、ギャチェンジはエンジンアイドリング状態で行つて下さい。

8) **走行作動油の温度計の指示が80°C以上で長時間運転しないで下さい。**高温で長時間使用すると、ポンプ、モータ内部部品の膨脹、摺動面のカジリ、油膜切れ等により故障の原因となります。

9）**高速走行での急旋回はさけて下さい。**冬期は特に路面の状態が悪いので、高速急旋回すると横すべり、横転の危険性があります。

10）**「シュート放雪↔直接放雪」の切換はブロアケース内に雪がある間は行わないで下さい。**ブロアケース内に雪が残っている状態で切換えるとフロントガラス等を破損することがあります。

11）**ソリを使用する時はシリンダで押しつけることは一般的にはさけて下さい。**シリンダで押しつけるとソリの摩耗を早めますので、フローテイング（浮き位置）状態にして除雪して下さい。

12）**けん引される場合は、ミッションのギャを入れたままで引張らないで下さい。**ギャを中立にしないでけん引するとギャ又はポンプモータが破損します。

13）**冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのはさけて下さい。**寒冷時、パーキングブレーキを使用するとブレーキドラムが凍結することがあります。タイヤに歯止めをして、除雪装置を路面に接地させて下さい。

14）**エアタンクのドレーンより凝水を排出することを忘れないで下さい。**排水を怠ると、凝水がブレーキパイプライン内で凍結することがあるので、毎日終業時実施下さい。

6．ロータリ除雪車（R500B,R500C）

1）**シャーピンは規定のもの以外使用しないで下さい。**動力伝達系や、作業装置が故障又は破損します。シャーピン用穴は6個又は4個ありますが、シャーピンの使用本数は2本ですので、2個のみ使用して下さい。

2）**ブロアケース内部に雪や氷が凍結した状態での始動はさけて下さい。**凍結したまま始動するとクラッチの摩耗、焼損の原因となります。

3）**除雪装置についた雪を落さないで、油圧シリンダを作動させないで下さい。**雪を落さないで作動させると思わぬ部分に無理がかかり、破損することがあります。

4）**暖機運転を行わないでの発進はさけて下さい。**冬期は持にオイルの粘度が高くなっているので暖機運転により各部の作動を円滑にして下さい。

5）**除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。**下降防止をしないと、除雪装置は油圧シリンダで支持されるのでホースの切損等により急降下すると思わぬ大事故になることが

6）あります。

ギャチェンジはエンジン高速回転では行わないで下さい。高速回転でギャチェンジすると、湿式多板クラッチの摩耗の原因となります。従ってギャチェンジはエンジンアイドリング状態で

7）行って下さい。

ソリを使用する時はシリンダで押しつけることは一般的にはさけて下さい。シリンダで押しつけると、ソリの摩耗を早めますので、フローテング（浮き位置）状態にして除雪して下さい。

8）**春山の全幅除雪では無理押しはさけて下さい。**トルクコンバータ駆動のため、前面抵抗に抗し

てけん引力が増大しますので、エンジン回転により負荷状況を判断し、フートブレーキを併用して除雪して下さい。

9）**けん引される場合はミッションのギャーを入れたままで引張らないで下さい。**ギャを中立にしないで、けん引するとギャーの破損又は湿式多板クラッチが損耗します。

10）**冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのはさけて下さい。**寒冷時、パーキングブレーキを使用するとブレーキドラムが凍結することがあります。タイヤに歯止めをして除雪装置を路面に接地させて下さい。

11）**エアタンクのドレーンより凝水を排出することを忘れないで下さい。**排水を怠ると凝水がブレーキパイプライン内で凍結することがあるので、毎日終業時実施下さい。

7．スノーローダ（NR451）

1）**シャーピンは規定のもの以外使用しないで下さい。**動力伝達系統や作業装置が故障又は破損します。

2）**ブロアケース内部に雪や氷が凍結した状態での始動はさけて下さい。**凍結したまま始動するとクラッチの摩耗、焼損の原因となります。

3）**除雪装置についた雪を落さないで、油圧シリンダを作動させないで下さい。**雪を落さないで、作動させると思わぬ部分に無理がかかり破損することがあります。

4）**走行用サクションフイルタの指針が250mmHg 以上を指示している時は発進又は運転はやめて下さい。**吸入圧力が高いと、チャージポンプの圧力が減じ、ポンプ、モータが故障します、始動時低温の場合は250mmHgをこえることがあるが、以下になるまで暖機運転を続けて下さい。10分以上経っても下らない場合にはエンジンを停止し、フイルターの点検又はエレメントの交換を行って下さい。

5）**暖機運転を行わないでの発進はさけて下さい。**冬期は特にオイルの粘度が高くなっているので暖機運転により各部の作動を円滑にして下さい。

6）**除雪装置の下降防止をしないで長距離回送はさけて下さい。**下降防止をしないと、除雪装置は油圧シリンダで支持されるので、ホースの切損等により急下降すると、思わぬ大事故になることがあります。

7）**走行作動油の温度計の指示が80°C以上で長時間運転しないで下さい。**高温で長時間使用すると、ポンプ、モータ内部部品の膨脹、摺動面のカジリ、油膜切れ等により故障の原因となります。

8）**「シュート放雪↔直接放雪」の切換はブロアケース内に雪がある間は行わないで下さい。**ブロアケース内に雪が残っている状態で切換えるとフロントガラス等を破損することがあります。

9）**ソリを使用する時はシリンダで押しつけることは一般的にはさけて下さい。**シリンダで押しつけると、ソリの摩耗を早めますので、フローテイング（浮き位量）状態にして除雪して下さい。

10）**シュートの起立、倒伏時はエンジン高速回転では行わないで下さい。**エンジン回転を高くする

とシュートの起立、倒伏が急動作となり非常に危険です。

11) **けん引される場合にはミッションのギャを入れたままで引張らないで下さい。**ギャを中立にしないで、けん引すると、ギャ又はポンプ、モータが破損します。

12) **冬期はパーキングブレーキを長期にわたって使用するのはさけて下さい。**寒冷時、パーキングブレーキを使用するとブレーキドラムが凍結することがあります。タイヤに歯止めをして、除雪装置を路面に接地させて下さい。

13) **エアタンクのドレーンより凝水を排出することを忘れないで下さい。**排水を怠ると、凝水がブレーキのパイプライン内で凍結し、制動不能になることがあるので、毎日終業時実施下さい。

8. 除雪トラック

1) **トランスファーの操作は下記によって下さい。**トランスファーは、フロントドライブ（前輪駆動）を行う為の装置で、トランスミッションの後部に設けられ、内部は、切換ギャー及高、低速切換ギャーとによって構成されて居ります。フロントドライブを作動させる時には、次の事を厳守して下さい。

①N —H への切換えは走行中ダブルクラッチを使用する事によって可能

②N —L への切換えは、必ず停車して行う事

③急停車、急発進は、特に注意する事

2) **フロントアクスル部への給油を忘れずに実施して下さい。**除雪作業時には、プラウの取付角度の関係により、常に左方向へハンドルを切りながら直進する状態が往々にしてあります。その様な作業の時に、ナックルアーム及ベアリング等に掛る力は大きなものであります。従って当該部への給油脂は1週間毎に念入りに行って下さい。

3) **クリップボルトの点検を適宜実施して下さい。**ボルト、ナット類は一般に振動によって弛みがちなものです。特にクリップボルト、ナットは、車両の全量、駆動力、及走行時の路面衝撃等を受ける重要なものです。これの弛みは重大事故になりますので、1ケ月毎に点検、増締をする必要があります。

4) **配線の氷結の除去を心がけて下さい。**車体外の灯火類（テールランプ・バックランプ・フラッシャランプ等）は一般に空中配線を行っていますが、冬期間これに雪が附着し凍結する事があります。、これを放置しておくと、だんだん大きく、重くなって、遂には配線を切断してしまい、灯火の不灯或は、ショートして配線が燃える等の事故につながる危険があります。これ等を防ぐ為には氷結を常に取除く必要があります。

5) **エアータンクの凝水排出を実施して下さい。**空気中の水分が、コンプレッサーによって圧縮され発熱したものが、エアータンク内に入り膨脹、冷却されると、水分が分離されタンク内や、配管内に溜り凍結により重大事故になります、従って終業時には必ず排水して下さい。又、新型車には、空気圧と連動し、且電気加熱により凍結防止を図った自動排水弁が装着されている車もあります。その場合は仕業点検時に必ず作動スイッチを入れて下さい。

6）**オイル交換の時期は一般作業よりも早めに実施して下さい。**一般的には、メーカー指示通りで良い訳けですが、除雪作業等では、エンジンの負荷が大きな為、標準よりも早目に行って下さい。

標準時期	除雪作業時
エンジンオイル……12,000km毎	10,000km毎
エレメント……12,000km毎	10,000km毎

7）**プラウのソリの調整を忘れないで下さい。**施工条件によっても異りますが、カッティングエッジのみに全重量を保持させる事なく、滑走板（ソリ）を適度の高さに調整して使用して下さい。

8）**プラウホイスト用チエーン、及び補助チェーンの取扱いを間違えないで下さい。**プラウはホイスト用チェーンを介して上、下します。除雪作業中はホイストチェーン、補助チェーン共に弛ませ、回送時には、プラウを上げた状態で補助チェーンを一杯に張ってホイスト用チェーンは弛ませて下さい。回送終了時には、忘れずに各チェーンを弛ませて、作業状態にして下さい。

9）**休車時にはホイストシリンダーを下降させて下さい。**プラウを完全に下げ、ホイストシリンダーに付着した雪を落して、一杯に縮めた状態で格納して下さい。シリンダーロッドの防錆と、ゴミ等の附着を防ぎます。

9．除雪グレーダ

1）**ターボチャージャは暖気運転、冷却運転をせずに、運転をしないで下さい。**排気により回転し、かつ、回転数が速く、高温であり急激な運転や停止をすると、温度差により歪みが発生し、油洩れ、焼付の原因となります。

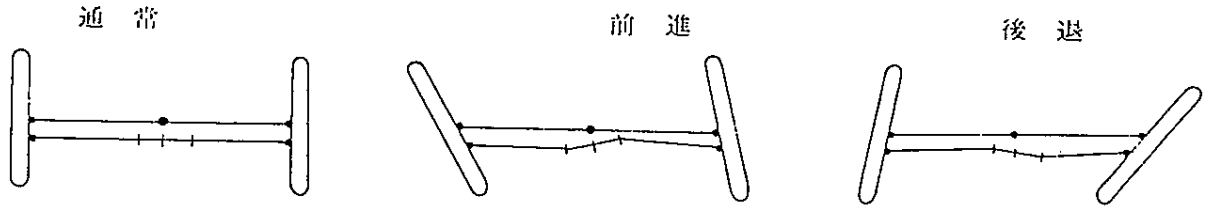
2）**ターボチャージャは長時間スロー運転をしないで下さい。**エンジンの温度が低く潤滑しているエンジンオイルが燃焼しないでカーボンとなり、ブロアに付着し、円滑な回転とならなく破損の原因となります。

3）**トランスミッションのチェンジレバーは乱暴に変速しないで下さい。**乱暴な操作をすると、チェンジレバー、シフターフォーク、シフタシャフトギャーの破損、曲りとなります。

4）**タンデムケース上は毎日清掃して下さい。**ケース上部のブリーザの周辺に泥や雪がたまると内部に水が入りやすくなります。

5）**後退時はリーニングを最大にしないで下さい。**タイロッドで前輪をおさえられなくなり　、片方のタイヤがフラフラになり、余分な力によりピットマンアーム、ステアリングたてシャフトが曲ります。

リーニング左たおしで上から見た図



6）**ブレードのスライドを余り大きくしないで下さい。**ブレードはサークルアームでおさえていますが、ブレードの巾の半分以下ですので強い力をかけますとブレードが曲ります。横送りシリンダーで行って下さい。

7）**バンクカット時は通常姿勢のままでしないで下さい。**バンクカットはブレードが片方90°に上るため、支点を移動しなければなりません。支点を移動しないと、本体とドローバ、又は、サークル回転モータが干渉します。

8）**スカリファイヤをいっぱいに上げて、ブレードをいっぱい下げないで下さい。**スカリファイヤ爪上部とドローバーが干渉し、ドローバを破損させます。

9）**カッテイングエッジボルトを規定トルク以上で締めないで下さい。**ボルトは規定トルク以上で締めると伸びてしまい、折損しやすくなります。

10）**エアタンクのドレーンより凝水を排出することを忘れないで下さい。**寒冷時、凝水がブレーキパイプライン内で凍結し制動不能となることがあるので非常に危険です。

11）**後輪のチェーンを弛めに張らないで下さい。**リャータイヤは２本あり間隔が狭いのでチェーンとチェーンが当り切損します。

10. 除雪ドーザ、スノーローダ（履帯式、車輪式）

1）**降雪時エンジンを始動させる場合必らずエアークリーナの廻りの雪を除去して下さい。**エンジンが雪をすい込むと、始動は悪くノッキング現像を起すと同時に、エアークリーナ、エレメントの機能が急即に低下し、定期整備に関係なく交換を早めます。

2）**作業終了後屋外駐車は必らず作業装置及び足廻りの雪を除去して下さい。**

（イ）ホイールローダの場合はプラウ装置が凍結し動かなくなります。

（ロ）ブルドーザの場合はキヤリヤローラが凍結し動かなくなります。

11. 除雪ドーザ、スノーローダ（車輪式）

1）**作業終了後は必らずエアータンクのドレーンを抜いて下さい。**エアタンク内に水がたまるとブレーキの効きが悪くなり危険です。

2）**長方形型ソリ装着車のＶプラウ又はアングリングプラウは地上に負荷を掛けたまま急旋回することは避けて下さい　（円板回転式除く）。**ソリの側面に大きな抵抗が掛り取付け部より破損します。従ってこの場合は、作業装置は地上より、約30mm程度上げてから旋回して下さい。

3）**回送中急ブレーキを必要とする場合は右側のブレーキを使用して下さい。**左側はクラッチブレーキ連動式である為踏み込んだ時はクラッチが切れてから、ブレーキが掛る構造となっています。従って瞬ぱっ制動は右側ブレーキより遅れます。

12. 凍結防止剤散布車

1）**アイドリング時に散布機構の試運転を実施して下さい。**作業時は気温が低く、ベルトコンベヤ

の初動が遅れることが有ります。作業前に充分アイドリングしても、作動油はタンク→ポンプ→タンクの間が温められるだけで、各配管内の作動油は冷えきって居り、従って粘度も高く流れが悪く初回の作動は応答の遅れがあります。

1回作動後は温められた作動油が配管内を流れる為流れが早く2回目以後の作動は正常に応答します。従ってアイドリング時、円盤をテスト作動し、ベルトコンベヤも手動ダイヤルを5目盛以上にしてスイッチＯＮし10～30cm程作動して下さい。こうして一度作動してから実作業に出動すれば実作業時には円滑に作動します。

2）**コンベヤ手動ダイヤルの0（ゼロ）戻しを忘れないで下さい。**上記テスト作動後には、手動ダイヤルは必ず0（ゼロ）位置にパチンと音の出るところ迄戻して下さい。戻し忘れると自動散布が出来ません。

3）**コントロールアンプのキースイッチは正確に押して下さい。**正確に押されていない場合キースイッチのランプが部分的にしか点灯しません。正確に押してもランプが点灯しない場合はヒューズ及びコネクターを点検して下さい。

4）**長時間の回送や作業終了格納時には、必ずコントロールアンプの電源は切って下さい。**切り忘れると、バッテリーの電圧が低下し、散布装置が正確に働かなくなります。

5）**コンベヤ手動ダイヤルにて作動時には必ずゲートを開いて下さい。**必ずゲートの位置を確認して、コンベヤーを作動して下さい。ゲートを閉じたままコンベヤーを作動させるとベルトがいたみます。自動散布の場合はゲートも自動に開く為特別確認の必要は有りません。

6）**ホッパ内に散布剤を長期間放置しないで下さい。**ホッパ内に散布剤を長期間放置すると散布機は固まり作業不能になります。もし誤って散布剤をホッパ内で固めてしまった場合は湯、水で流し出して下さい。

7）**水洗、給油を頻繁に実施して下さい。**この散布車で今迄起きた故障の多くは錆付きによる故障です。各部の水洗及び給油はいくらやっても充分すぎるということは有りません。面倒でも念入に実施して下さい。

時々、シャーシの下へ入ってコンベヤの底板を開き、中に溜った散布剤を除去し、水洗して下さい。コンベヤチェーンは適宜、点滴給油をすると共に、時々はグリースを塗布して下さい。特に春の作業終了時には充分すぎる程グリースを塗布して下さい。

8）**作動油補充時、ゴミに注意して下さい。**作動油内にゴミが混入すると、油圧弁に詰って圧力低下が生じ作動不良を起します。

9）**配線、配管は傷つけない様に注意して下さい。**たった一つの配線、配管の損傷でも、作動不良になります。

10）**ハンチングや応答の遅れが発生した場合は修理工場又はメーカに連絡し指示に従って下さい。**（ハンチングとは次のことを云います）コンベヤの場合＝コンベヤがスムースに回転せず、減速機部にあるコンベヤ駆動チェーンがダッ、ダッ、ダッ、ガチャ、ガチャと大きな音を出します。散布円盤の場合＝1回転に極端に速いところと遅いところが出てフラ 、フラと回ったり、回

ったと思うとすぐ止まる様な状態になります。

ゲートの場合＝ゲートが所定の位置に停まらずこきざみに上下動を繰り返します。

社団
法人 日本建設機械化協会北陸支部
〒950-0965
新潟市新光町６－１ 興和ビル9F
TEL : 025-280-0128
FAX : 025-280-0134
E-mail: : jcmahoku@beige.ocn.ne.jp
http : // www.niigata-inet.or.jp/jcmahoku